

浜松市文化財保存活用地域計画(案)

資料編

令和2年12月

浜 松 市

例 言

本書は『浜松市文化財保存活用地域計画』の資料編である。同名の本編を補完する資料等を掲載する。

本書に掲載した資料は、令和2年12月1日現在のものである。

本書で示す用語は、以下のとおり定義する。

指定文化財：国、静岡県、浜松市の指定文化財

指定等文化財：国、静岡県、浜松市の指定文化財と国の登録文化財及び市認定文化財の総称

市認定文化財：浜松地域遺産認定制度に基づき市が独自に把握する文化財

目 次

1	各種地図	1
	(1) 地 質	1
	(2) 地 形	2
	① 広 域	2
	② 市内詳細	3
	(3) 水系・平均気温・年間降水量・年間日照時間	4
	(4) 旧町村区分	5
2	関連資料	6
	(1) 古代の地域区分（郡・郷）	6
	(2) 式内社	8
	(3) 中世の地域区分（荘園・御厨）	10
	(4) 支配層の変遷	12
	① 遠江国守護	12
	② 浜松城歴代城主	13
	(5) 交 通	14
	(6) ゆかりの人物	15
3	主な文化財	22
	(1) 有形文化財建造物	22
	(2) 有形文化財美術工芸品	26
	① 絵 画	26
	② 彫 刻	26
	③ 工芸品	28
	④ 書 跡	29
	⑤ 典 籍	29
	⑥ 古文書	29
	⑦ 考古資料	30
	⑧ 歴史資料	30
	(3) 有形民俗文化財	36
	(4) 無形民俗文化財	40
	(5) 史跡、考古資料	44
	① 旧石器・縄文・弥生時代	44
	② 古墳時代	48
	③ 奈良時代～室町時代	52
	④ 城 跡	56
	⑤ 街 道	60

(6) 名 勝.....	64
(7) 天然記念物.....	68
(8) 近代化・産業遺産.....	72
(9) 埋蔵文化財.....	76
4 指定等文化財一覧.....	82
(1) 国指定文化財.....	82
(2) 静岡県指定文化財.....	82
(3) 浜松市指定文化財.....	84
(4) 国登録有形文化財.....	89
(5) 記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財.....	90
(6) 浜松市認定文化財.....	90
(7) 指定等文化財集計表.....	96
(8) 文化財に関する主な社寺.....	97
5 年 表.....	104

1 各種地図

(1) 地質

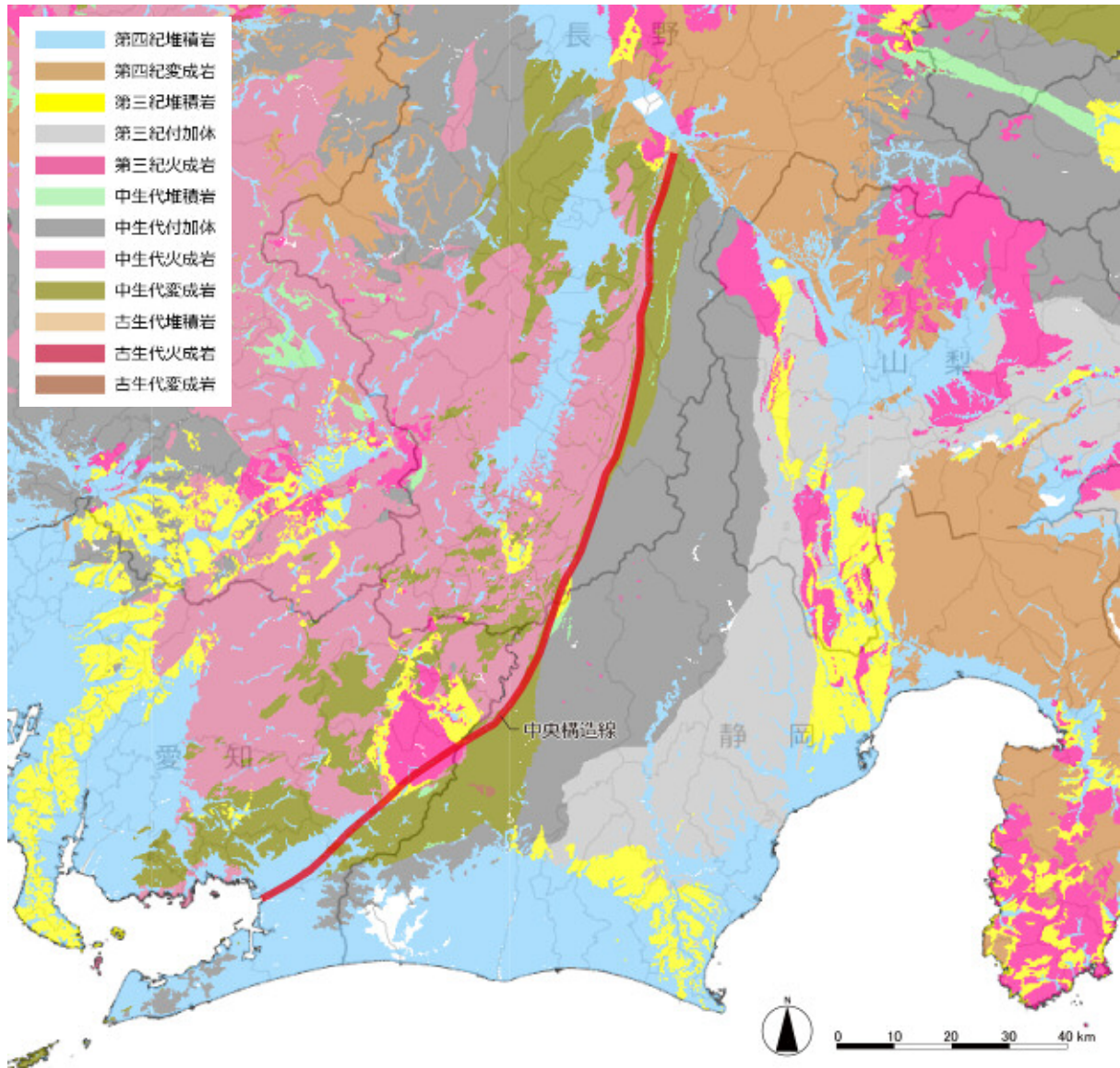


図1 地質

(2) 地形

① 広域



図2 地形（広域）

② 市内詳細

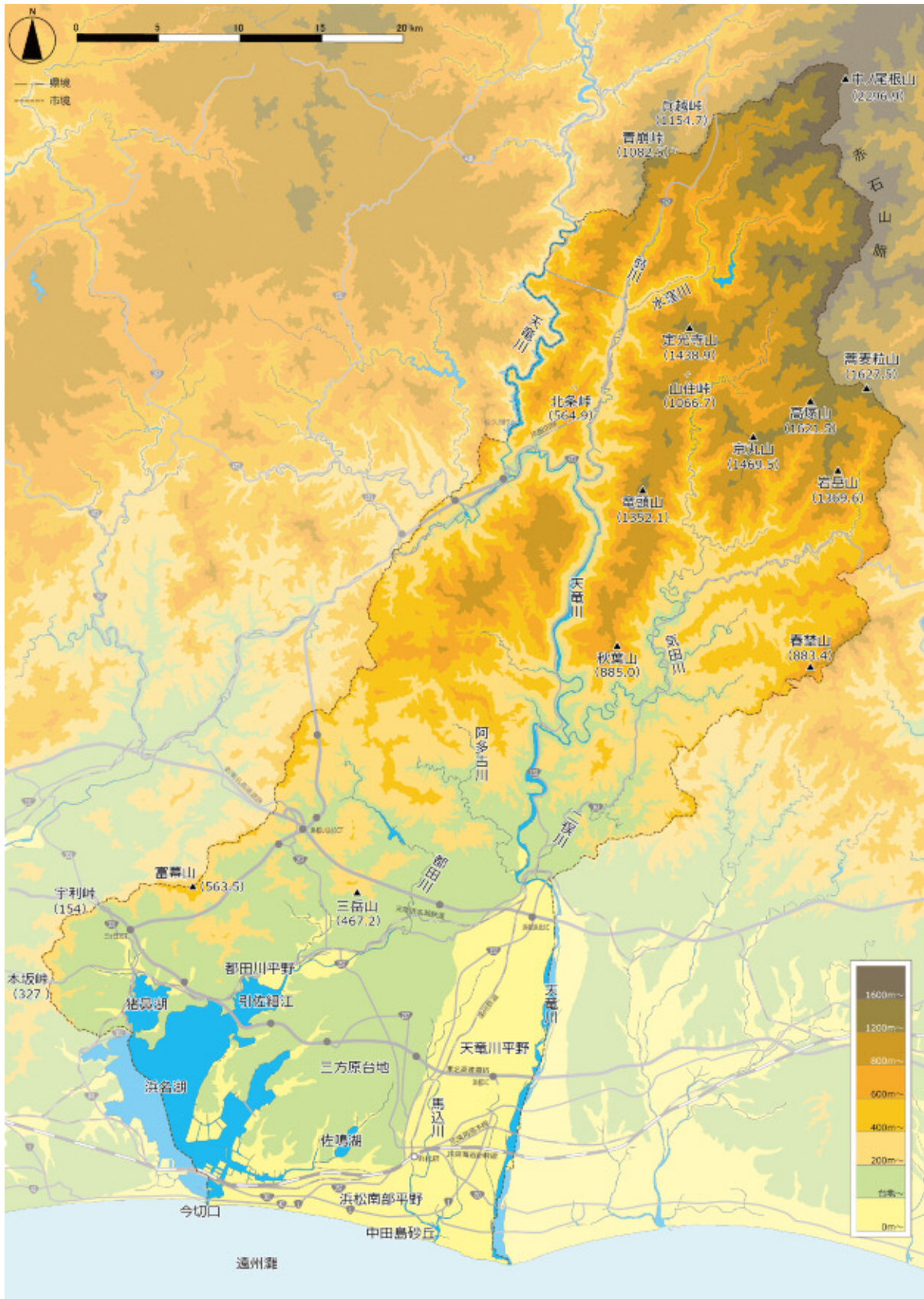


図3 地形

(3) 水系・平均気温・年間降水量・年間日照時間



図4 水系・流域

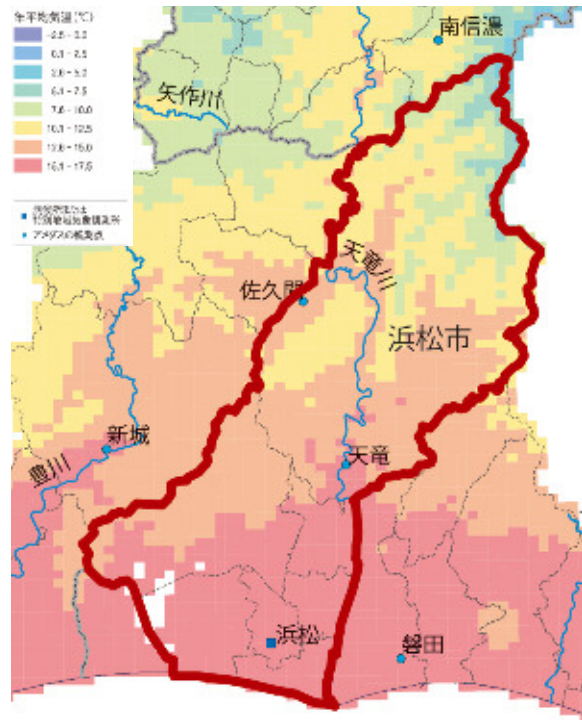


図5 気温

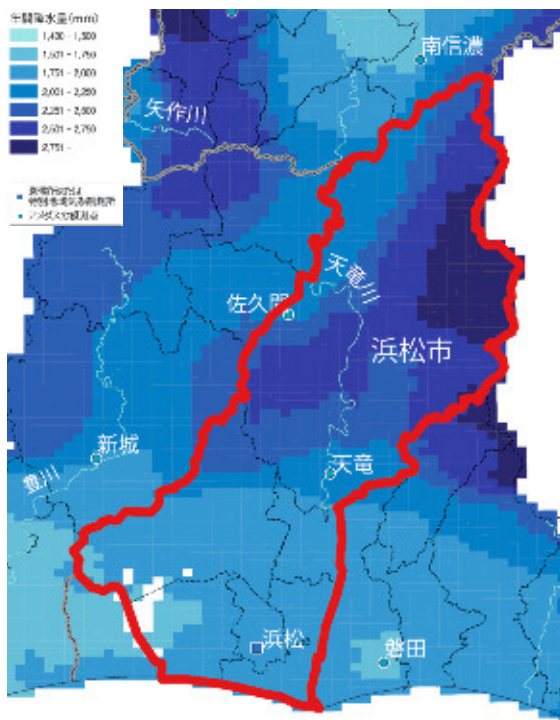


図6 降水量

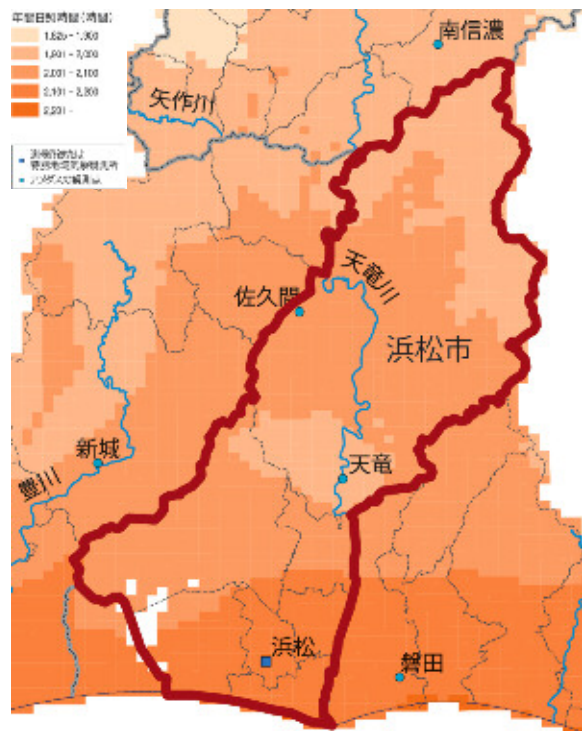


図7 日照時間

(4) 旧町村区分

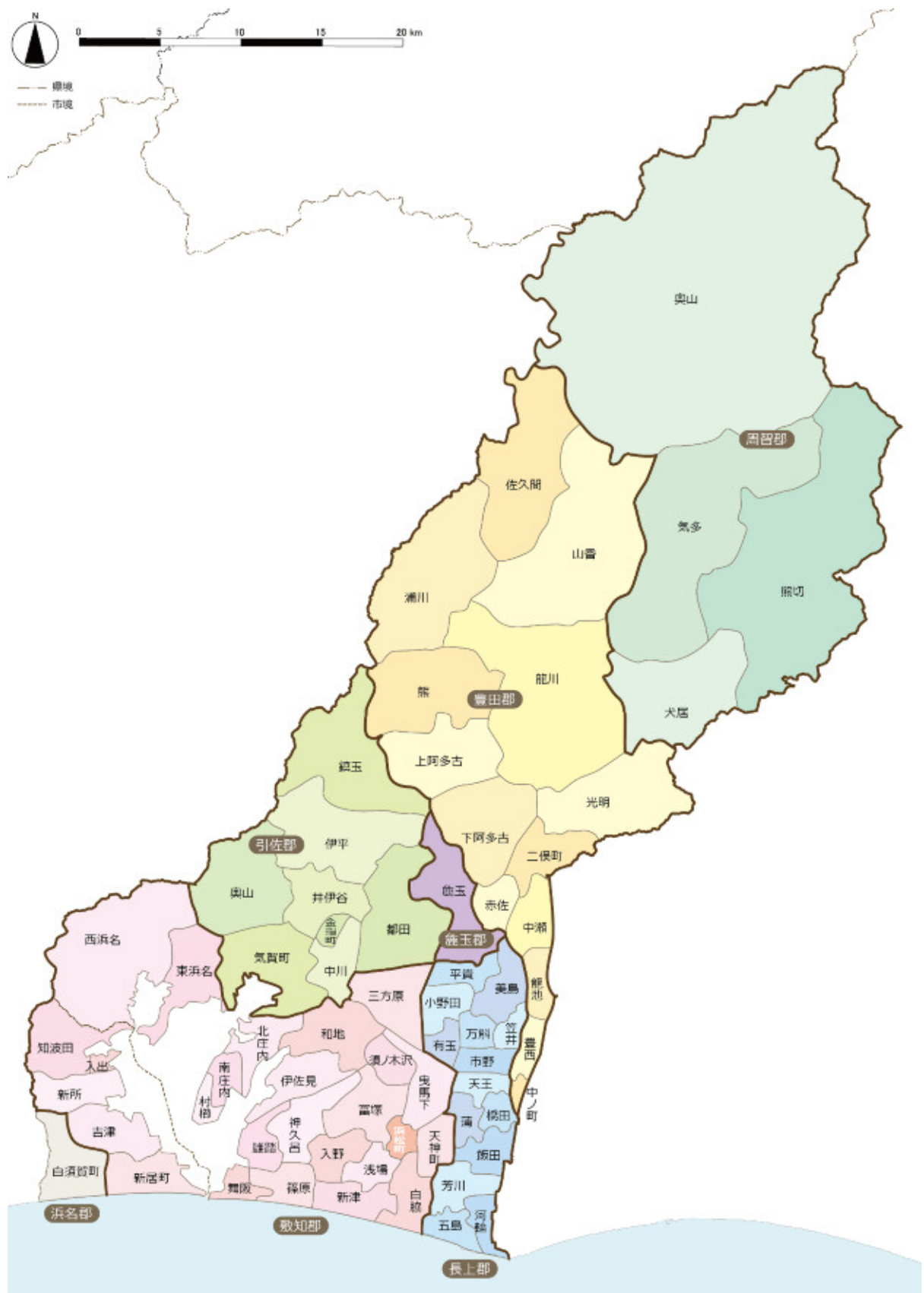


图8 旧町村区分 (明治22年(1889))

2 関連資料

(1) 古代の地域区分（郡・郷）

表1 『和名類聚抄』にみえる浜松周辺の郡・郷（里）

郡名	高山寺本 平安末期の写本 12世紀	大東急記念文庫本 室町中期の写本 15世紀	名古屋市博物館本 永禄九年の写本 1566年	元和古活字本 元和三年 1617年
浜名郡 波万奈	坂本 大神 駅家 贄代 英多 宇智	坂上 坂本 大神 駅家 贄代 英多 宇智	坂本 坂下 大神 駅家 贄代 英多 宇智	坂上 坂本 大神 駅家 贄代 英多 宇智
敷知郡 〔敷智郡〕 淵	蛭田比留多 赤坂安加佐賀 象嶋 柴江之波江 小文 竹田 雄踏 海間阿万 和治 浜津	蛭田比留多 赤坂阿加佐賀 象嶋 柴江之波江 小文 竹田太介多 雄踏 尾間於万 和治 浜津波万万都 駅家	蛭田ヒルタ 赤坂アカサカ 象嶋 柴江シハエ 小文 竹田 雄踏 海間アマ 和治 浜津 駅家	蛭田比留多 赤坂阿加佐賀 象島 柴江之波江 小文 竹田太介多 雄踏 尾間於万 和治 浜津波万万都 駅家
引佐郡 伊奈佐	京田美夜古太 刑部 渭伊為以 伊福以布久	京田美也古多 刑部於佐加倍 渭伊井以 伊福以布久	京田ミヤコタ 刑部 渭伊イ 伊福イフコ	京田美也古多 刑部於佐加倍 渭伊井以 伊福以布久
鹿玉郡 阿良多末	三宅 碧田安乎多 覇田反田 赤狭阿加佐	三宅美也介 碧田安乎多 覇田反多 赤狭阿加佐	三宅 碧田アヲタ 覇田ハタ 赤狭アカサ	三宅美也介 碧田安乎多 覇田反多 赤狭阿加佐
長上郡 長乃加美	芽原知波良 碧海阿乎宇三 長田 河辺加波へ 蟾沼比支奴末 壺志以知之	芽原加波良 碧海阿乎宇美 長田奈加多 河辺加波乃倍 蟾沼比木奴万 壺志以知之	芽原チハラ 碧海アヲウミ 長田 河辺カハへ	芽原加波良 碧海阿乎宇美 長田奈加多 河辺加波乃倍 蟾沼比木奴万 壺志以知之
豊田郡 止興太 国府	(掲載なし)	(掲載なし)	府 蟾沼ヒキヌマ 壺志イチシ	(掲載なし)
長下郡 准上	大田 長野奈加乃 貫名沼岐奈 伊筑 幡多判多 大楊 老馬於以万 通隈止保利久万	太田 長野奈加乃 貫名奴木奈 伊筑 幡多判多 大楊於保也奈木 老馬於以万 通口止保利久万	大田 長野 貫名ヌキナ 伊筑 幡多 大楊 老馬ヲヒマ 通隈トヲリクマ	太田 長野奈加乃 貫名奴木奈 伊筑 幡多判多 大楊於保也奈木 老馬於以万 通熊止保利久万
磐田郡 伊波太	飯宝 曾能 山香 入見 小野 千柄 高苑 壬生 野中 久米 小谷 飯宝 豊国	飯宝 曾能 山香 入見 小野乎乃 千柄 高花 壬生尔布 野中乃奈加 久米 小谷 飯宝 神戸 豊国止与久尔 駅家	飯宝 曾能 山香 入見 小野 千柄 高苑 壬生 野中 久米 小谷 飯宝 神戸 豊国 駅家	飯宝 曾能 山香 入見 小野乎乃 千柄 高花 壬生尔布 野中乃奈加 久米 小谷 飯宝 神戸 豊国止与久爾 駅家
山香郡 也末加	大峯 与利 岐階 氣多	大峯 與利 岐階 氣多	大岑 与利 岐階 氣比キヒ	大峯 與利 岐階 氣多
周智郡	小山 山田 依智 大田 田椀	小山乎也万 山田也万多 依智江知 大田於保多 田椀	小山ヲ 山田 依智 大田 田椀	小山乎也万 山田也万多 依智江知 大田於保多 田椀

『和名抄』のうち高山寺本では「駅家」等の表記を省略するとある。

『倭名鈔』大東急記念文庫本では「鹿玉 阿良多末 今称有玉」と記載する。

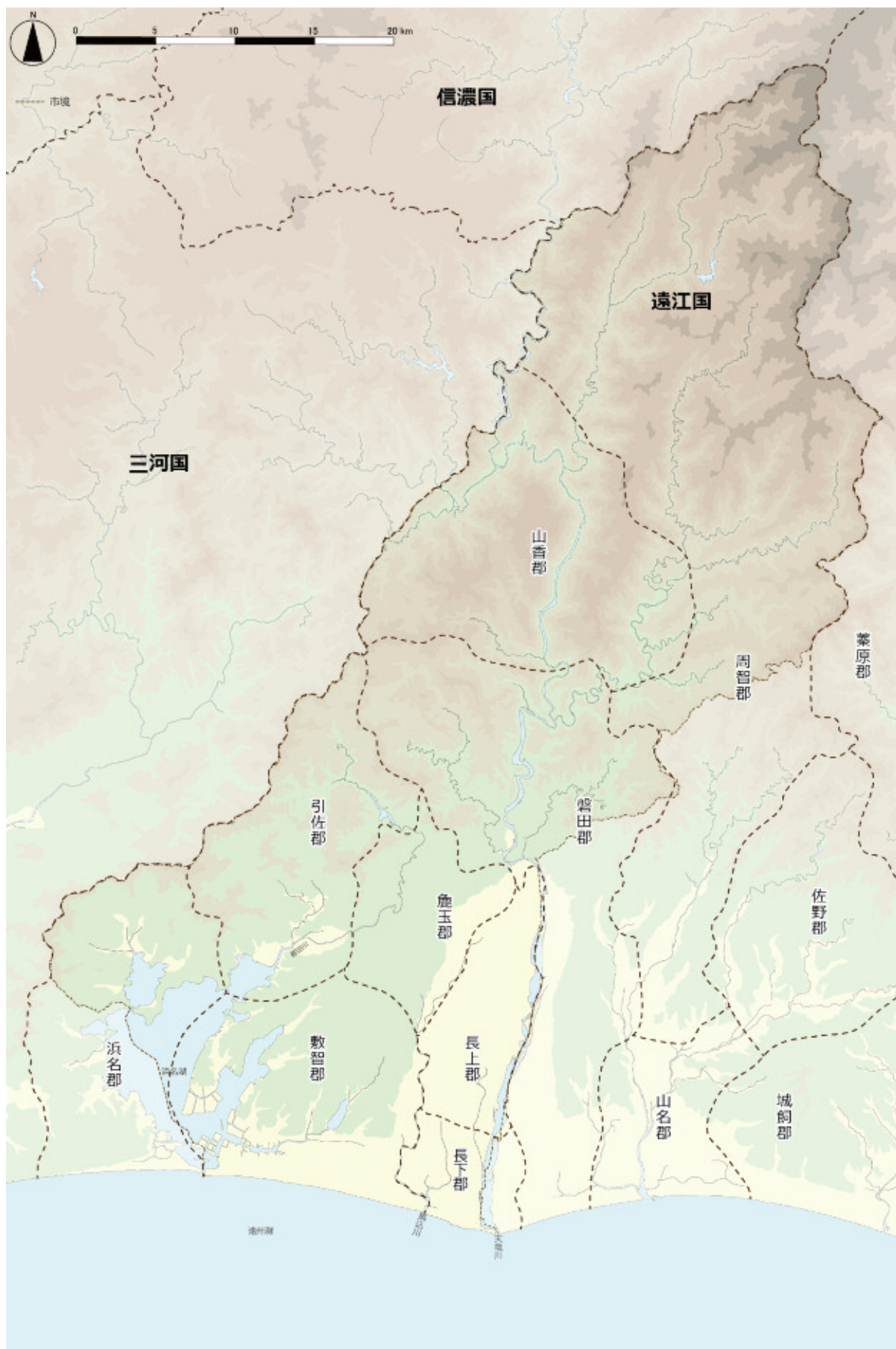


図9 古代の郡界（推定）

(2) 式内社

表2 式内社

No.	旧郡	名称		住所		現在の社 (無記入は左記の 神社名と同じ)
		漢字	よみ	区	町等	
1	浜名郡	弥和山神社	みわやまじんじゃ	北区	三ヶ日町只木神明宮	
2	浜名郡	英多神社	えた/あがたじんじゃ	北区	三ヶ日町三ヶ日大輪山	浜名惣社神明宮
3	浜名郡	猪鼻湖神社	いはなこじんじゃ	北区	三ヶ日町下尾奈	
4	浜名郡	角避比古神社	つのさくひこじんじゃ	所在不明		-
5	敷智郡	岐佐神社	きさじんじゃ	西区	舞阪町舞坂	
6	敷智郡	許部神社	こへじんじゃ	中区	八幡町	浜松八幡宮
7	敷智郡	津毛利神社	つもりじんじゃ	所在不明		-
8	敷智郡	息神社	やすみ/おむじんじゃ	西区	雄踏町字布見	
9	敷智郡	曾許乃御立神社	そこのみたちじんじゃ	西区	呉松町	
10	敷智郡	賀久留神社	かくるじんじゃ	西区	神ヶ谷町	
11	引佐郡	渭伊神社	いいじんじゃ	北区	引佐町井伊谷	
12	引佐郡	乎豆神社	をつじんじゃ	北区	細江町中川	
13	引佐郡	三宅神社	みやけじんじゃ	北区	引佐町井伊谷	二宮神社
14	引佐郡	蜂前神社	はちさきじんじゃ	北区	細江町中川	
15	引佐郡	須倍神社	すへじんじゃ	北区	都田町	
16	引佐郡	大塚神社	おおせちじんじゃ	北区	引佐町三嶽	三嶽神社
17	引佐郡	大塚神社(同上)	おおせちじんじゃ	北区	滝沢	四所神社
18	亀玉郡	於侶神社	おろじんじゃ	浜北区	於呂	於呂神社
19	亀玉郡	於侶神社(同上)	おろじんじゃ	浜松市	道本	於呂神社
20	亀玉郡	多賀神社	たかじんじゃ	浜北区	尾野	高根神社
21	亀玉郡	多賀神社(同上)	たかじんじゃ	浜北区	宮口	六所神社
22	亀玉郡	長谷神社	ながたにじんじゃ	浜北区	堀谷	六所神社
23	亀玉郡	若倭神社	わかやまとじんじゃ	所在不明		-
24	長下郡	大厩神社	おおみかじんじゃ	東区	中野町	大厩神社
25	長下郡	大厩神社(同上)	おおみかじんじゃ	浜北区	東美菌	八幡宮
26	長下郡	登勒神社	とろくじんじゃ	浜北区	道本	於呂神社
27	長下郡	猪家神社	きのへじんじゃ	天竜区	二俣	椎ヶ脇神社
28	長下郡	猪家神社(同上)	きのへじんじゃ	浜北区	小林	稲荷神社
29	長上郡	大歳神社	おおとしじんじゃ	東区	天王町	大歳神社
30	長上郡	大歳神社(同上)	おおとしじんじゃ	東区	神立町	蒲神明宮
31	長上郡	邑勢神社	いふせじんじゃ	東区	大島町	邑瀬神社
32	長上郡	服織神社	はとりじんじゃ	東区	豊町	服織神社
33	長上郡	朝日波多加神社	あさひはたかじんじゃ	所在不明		-
34	長上郡	子倉神社	こくらじんじゃ	東区	白鳥町	子安神社 か
35	山名郡	山名神社	やまなじんじゃ	所在不明		-
36	山名郡	郡辺神社	こをりへじんじゃ	所在不明		-



图 10 式内社

(3) 中世の地域区分（荘園・御厨）

表3 荘園・御厨

No.	名称	郡名	立荘時の領主	現在位置
1	市野荘	長上	貞観寺領	浜松市東区市野町ほか
2	高家荘	長下	貞観寺領	不明、後に頭陀寺荘の一部か
3	池田荘	豊田(磐田)	松尾社領	浜松市東区、磐田市南西部
4	羽島荘	豊田・長上	新熊野社領	浜松市東区
5	頭陀寺荘	長下	高野山領	浜松市南区、磐田市南西部
6	川勾荘	長下	頭陀寺領(仁和寺末)	(頭陀寺荘と同じ)
7	山香荘	山香	長講堂領	浜松市天竜区春野町、佐久間町、水窪町、龍山町ほか
8	気賀荘	引佐	七条院領	浜松市北区細江町ほか
9	飯田荘	周智	蓮華王院	周智郡森町
10	那賀荘	不明	高野山領	不明、湖西市中ノ郷か
11	浜松荘	敷智	室町院領・安嘉門院領	浜松市中区、南区、西区、天竜区阿多古
12	忝(吉美)荘	敷智	不明	湖西市吉美ほか
13	村櫛荘	敷智	最勝光院領	浜松市西区庄内地区ほか
14	笠井荘	長上	室町幕府領	浜松市東区笠井地区ほか
15	尾奈御厨	浜名	伊勢神宮	浜松市北区三ヶ日町尾奈
16	浜名神戸	浜名	〃	浜松市北区三ヶ日町岡本ほか
17	大崎御園	浜名	〃	浜松市北区三ヶ日町大崎
18	北原御園	浜名	〃	浜松市北区三ヶ日町福長
19	大墓御厨	浜名	〃	浜松市北区三ヶ日町付近
20	佐久目御園	浜名	〃	浜松市北区三ヶ日町佐久目
21	但木美園	浜名	〃	浜松市北区三ヶ日町只木
22	都田御厨	引佐	〃	浜松市北区都田地区
23	祝田御厨	引佐	〃	浜松市北区細江町祝田
24	刑部御厨	引佐	〃	浜松市北区細江町中川
25	美菌御厨	長上	〃	浜松市浜北区美菌ほか
26	蒲御厨	長上	〃	浜松市東区、南区
27	豊永御厨	長上	〃	浜松市浜北区内野・小松ほか
28	池田御厨	豊田	〃	浜松市または磐田市

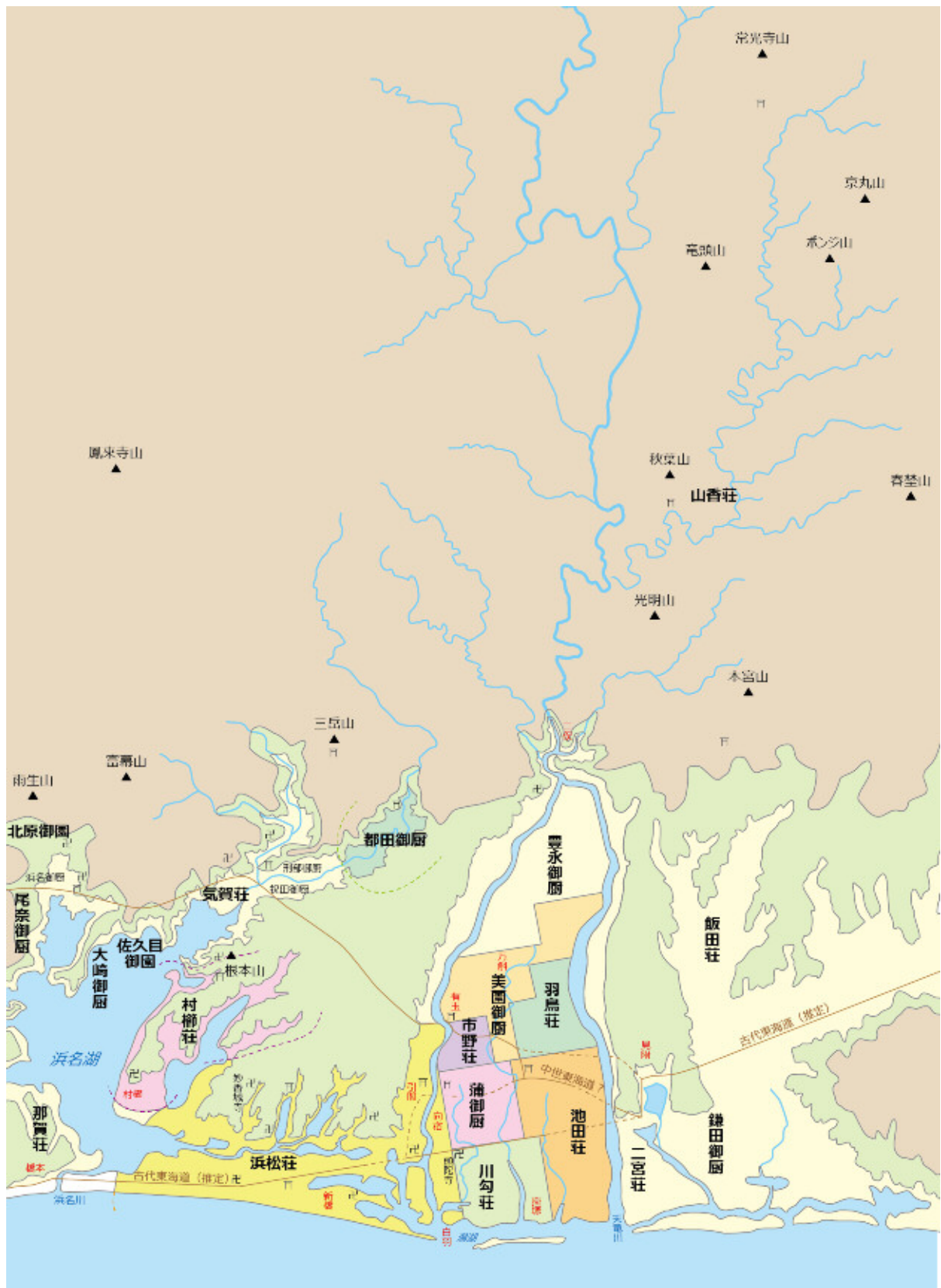


图 11 莊園・御厨

(4) 支配層の変遷

① 遠江国守護

表4 遠江国歴代守護

No.	氏名	法名	官職名・呼名	在任期間			
1	今川範国	心省	五郎入道	元弘 3年 (1333)	—	暦応 1年 (1336)	
2	仁木義長		右馬権助	暦応 2年 (1339)	—	康永 2年 (1343)	
3	千葉貞胤		千葉介	康永 2年 (1343)	—	観応 2年 (1351)	
4	仁木義長		右馬権助	観応 2年 (1351)	—		
5	今川範氏		上総介	正平 7年 (1352)	—		
6	今川範国	心省		正平 7年 (1352)	—	貞治 4年 (1365)	
7	今川貞世	了俊	伊予守	永和 4年 (1378)	—		
8	今川範国	心省		康暦 1年 (1379)	—	至徳 1年 (1384)	
9	今川貞世	了俊	伊予入道	至徳 1年 (1384)	—	嘉慶 2年 (1388)	
10	今川仲秋	仲高		嘉慶 2年 (1388)	—	応永 6年 (1399)	
11	今川泰範	法高	上総介	応永 6年 (1399)	—		
12	斯波義教(重)	道孝	右兵衛督	応永 12年 (1405)	—		
13	斯波義淳	道忠	左兵衛佐 治部大輔	応永 26年 (1419)	—	永享 5年 (1433)	
14	斯波義郷	道慶	治部大輔	永享 5年 (1433)	—	永享 8年 (1436)	
15	斯波義健	道寿	治部大輔	永享 8年 (1436)	—	享徳 1年 (1452)	
16	斯波義敏	道海	佐兵衛佐	享徳 1年 (1452)	—	寛正 1年 (1460)	
17	斯波松王丸		(義良・義寛)	寛正 1年 (1460)	—	寛正 2年 (1461)	
18	斯波義廉		治部大輔	寛正 2年 (1461)	—	文正 1年 (1466)	
19	斯波義敏		佐兵衛佐	文正 1年 (1466)	—		
20	斯波義廉		治部大輔 佐兵衛佐	文正 1年 (1466)	—	文明 2年 (1470)	
21	斯波義寛		佐兵衛佐	延徳 3年 (1491)	—	文亀 1年 (1501)	
22	斯波義達				—	永正 5年 (1508)	
23	今川氏親	貫公	修理大夫	永正 5年 (1508)	—	大永 6年 (1526)	
24	今川氏輝	去公	五郎	大永 6年 (1526)	—	天文 5年 (1536)	
25	今川義元	哲公	治部大輔 三河守	天文 4年 (1536)	—	永禄 3年 (1560)	
26	今川氏真	栄公	治部大輔 上総介	永禄 3年 (1560)	—	永禄 12年 (1569)	

② 浜松城歴代城主

表5 浜松城歴代城主

西暦	城主	在城期間		年限	地域の支配者	石高	前封地	転封地	在城中の役職等、備考
		自	至						
	引間城主として名前が見える武将 永正年間、久野越中守屋敷を三善為連が城とする。「浜松御在城記」 大河内備中守貞綱(別説)。「曳馬拾遺」 巨海新左衛門尉。「宗長手記」 小原肥前守(永禄3)石高4.7万石「今川分限帳」				斯波氏・吉良氏 今川氏				
	飯尾善四郎堅連 豊前守乗連 豊前守連龍	天文? ~ ~ 永禄3 永禄3 ~ 永禄8				天文11(1551)、少年時代の豊臣秀吉が松下之綱の家人として引馬城に飯尾豊前守を訪問する。		(誅殺)	飯尾連龍、今川氏真に殺害される。
1565	(江間安芸守泰顕・加賀守時成)								安芸守と加賀守内紛、永禄11年家康引馬城占拠。
1570	徳川三河守家康	元亀1 ~ 天正14	17年	(徳川氏)	初52万石 後152万石	三河岡崎	駿府府中	元亀3(1572)三方ヶ原にて武田信玄に敗北。 天正7(1579)信康自刃、築山殿殺害。 後江戸252万石、開幕400万石。 菅沼定政預城。定政は後、土岐に復姓、下総相馬。	
1586	(城代)	天正14 ~ 天正18							
1590	堀尾帯刀吉晴	天正18 ~ 慶長4	2代	豊臣氏	初12万石 後17万石	近江佐和山	(譲) 出雲松江	豊臣系大名、中老。 出雲・隠岐24万石、国宝松江城を建設。	
1599	信濃守忠氏	慶長4 ~ 慶長5	11年						
1601	松平左馬亮忠頼	慶長6 ~ 慶長14	9年	徳川氏(将軍家)	5万石	美濃金山	横死	子忠重は上総佐貫で大名に復帰。後、掛川城主。	
1609	水野対馬守重仲	慶長14 ~ 元和5	11年		初2.5万石 後3.5万石	常陸	紀伊新宮	駿遠国主徳川頼宣の付家老。 元和2(1616)家康、駿府で没する。	
1619	高力摂津守忠房	元和5 ~ 寛永15	20年		初3.1万石 後3万石	武蔵岩槻	肥前島原	駿遠国主徳川忠長(寛永1~9)	
1638	松平和泉守乗寿	寛永15 ~ 正保1	7年		3.5万石	美濃岩村	上野館林	老中・侍従	
1644	太田備中守資宗	正保1 ~ 寛文11	2代		3.5万石	三河西尾	大坂城代	(致仕)	
1671	摂津守資次	寛文11 ~ 延宝6	35年		3.2万石			奏者番・寺社奉行	
1678	青山因幡守宗俊	延宝6 ~ 延宝7	3代		5万石	大坂城代	丹波亀山	老中 このころ、浜松の領分絵図を制作する。	
1679	和泉守忠雄	延宝7 ~ 貞享2	25年						
1685	下野守忠重	貞享2 ~ 元禄15							
1702	松平伯耆守資俊	元禄15 ~ 享保8	2代		7万石	常陸笠間	三河吉田	本庄姓、松平姓拝領。侍従	
1723	豊後守資訓	享保8 ~ 享保14	28年		7万石	三河吉田	三河吉田	侍従 大坂城代・侍従・老中	
1729	松平伊豆守信祝	享保14 ~ 延享1	2代						
1744	伊豆守信復	延享1 ~ 寛延2	21年		7万石	三河吉田	丹後宮津	再任、本庄姓。京都所司代・侍従	
1749	松平豊後守資訓	寛延2 ~ 宝暦2	2代						
1752	富之助資昌	宝暦2 ~ 宝暦8	11年		6万石	京都所司代	陸奥棚倉	京都所司代・侍従・老中 奏者番・寺社奉行	
1758	井上河内守正経	宝暦8 ~ 明和3	3代						
1766	河内守正定	明和3 ~ 天明6	60年						
1786	河内守正甫	天明6 ~ 文化14							
1817	水野越前守忠邦	文化14 ~ 弘化2	2代	初6万石 後7万石	肥前唐津	出羽山形	寺社奉行・大坂城代・老中・侍従		
1845	金五郎忠精	弘化2 ~ 弘化2	29年	6万石	上野館林	上総鶴舞	再任。 寺社奉行・老中・侍従		
1845	井上河内守正春	弘化2 ~ 弘化4	2代						
1847	河内守正直	弘化4 ~ 明治1	24年						

(6) ゆかりの人物

表6 ゆかりの人物（その1）

名前	時代	性別	解説
はまきたじん 浜北人	18000年前 旧石器時代	女	現存する本州最古の化石人骨。中央構造線の外帯に連なる古中世層のうちに発達した石灰岩の洞窟に暮らしていた。下層と上層があり、上層の人骨は20歳代の女性、身長は143cmと推定されている。
みっかびじん 三ヶ日人	8000年前 縄文時代	男	石灰岩の岩陰で暮らした。当初の旧石器時代との学説が縄文時代早期に変更されたが、本州の希少な化石人骨として同一市域から年代の異なる人骨の出土は貴重。成人男子で身長150cm前後か。
しじみづかじん 蜆塚人	4000年前 縄文時代	男	縄文時代後晩期の貝塚に埋葬されていた人骨。屈葬で貝の腕輪をした老人。身長は150cm台。蜆塚遺跡は東海地方では最大級の貝塚で、国の史跡。遺跡公園に隣接して浜松市博物館がある。
わかやまとべのむらじおいまる 若倭部連老末呂	699年 飛鳥時代	男	古代の役所があった伊場遺跡から出土した木簡に記載された人名。「瀨評竹田里人若倭部連老末呂」、役所に呼び出されたいらしい。この他にも伊場木簡には古代の人名が見られる。
たじひのきみのおびとまとめ 蝮王首真土売	726年 奈良時代	女	山城国雲下里（現京都市）の住人蝮王首真土売以下、宅主売・宅売・姉売（4姉妹か）が、長田上郡（現浜松市東区付近）にて暮らす。出雲臣の一族が天竜川下流にも拠点を置き、交流していた。
わかやまとべのみまろ 若倭部身麿	755年 奈良時代	男	天平勝宝七年、防人として筑紫に赴いた龜玉郡の主帳丁。万葉集に「わが妻はいたく恋ひらし飲む水に影さへ見えて世に忘れず」の歌を残す。また、長下郡の人物として、物部秋持、物部古麿がいる。
さかのうえたむらまる 坂上田村麻呂	758～811 平安時代	男	征夷大將軍。陸奥の国の経営だけでなく、平安京でも活躍した官人。京都から蝦夷征伐に向かう途中、当地を經由しているのは確実だが、天竜川の洪水と大蛇に関わる有玉伝説が創作されている。
たいりょう いしやま 大領 石山	9世紀 平安時代	男	平安時代の伊場遺跡出土木簡に署名がある。古代の遠江国のうち敷智郡（現浜松市中区付近）の長官（大領）のうちで唯一名前が判明している。大領は官職名、直筆のサインとみられる。
たちばなのはやなり 橘逸勢	?～842 平安時代	男	平安時代の三筆のうちひとり、隸書をよくした。承和の変に連座し伊豆に配流される途中、遠江国板筑駅にて病死。死後許されて従四位下を追贈される。三筆（書の達人）とは他に空海と嵯峨天皇。
せいしょうなごん 清少納言	966～? 平安時代	女	清原元輔の娘、『枕草子』の作者。一条天皇の皇后・定子に仕えた。同書のうち橘の部で「浜名の橘」を取り上げるなど、全国の名所に注目していた。全国の名所旧跡の情報が都に寄せられていた。
すがわらのたかすえむすめ 菅原孝標女	1008～? 平安時代	女	菅原道真の家系に生まれる。『更級日記』の作者。寛仁2年(1020)に父の任地だった上総（現千葉県）から京に上るおり、天竜川のほとりに仮宿を建てた旅行の経験などを記す。

表7 ゆかりの人物（その2）

名 前	時 代	性別	解 説
さいぎょう 西行法師	1118～1190 鎌倉時代	男	藤原一門・佐藤家の出身で、北面の武士として出仕、後に出家して全国を旅した歌人。後代の歌人・俳人に大きな影響を残した。天竜川の渡りで、船に乗る順番でもめ事に巻き込まれたとの逸話がある。
みなものりのり 源範頼	?～1193 平安時代末	男	源義朝の六男、頼朝の弟。母は池田宿（浜松市南区と推定）の遊女。蒲御厨で育ち、「蒲冠者」と呼ばれる。平氏討伐に尽力したが、頼朝に疑われ、幽閉されて殺害される。市内にゆかりの地がある。
あふつ 阿仏尼	1222～1283 鎌倉時代	女	養父・平度繁（たいらののりしげ）に従い、一時、引間に暮らす。『うたたね』、『十六夜日記』を著して当時の浜松付近のようすを記す。「今宵は引馬の宿といふ処に留まる、大方の名は浜松とぞ言ひし」。
むねよしんのう 宗良親王	1311～1385 南北朝時代	男	後醍醐天皇の皇子。父の意向を受けて南朝方の支援を得るため、遠江の井伊家をたよるが、高師泰ら北朝方の攻撃で1340年、三岳城が落城し、信濃に敗走した。市内各地にゆかりの地がある。
むもんげんせん 無文元選	1323～1390 南北朝時代	男	後醍醐天皇の皇子、宗良親王の弟。建仁寺で出家し中国に留学の後、井伊家一門奥山氏の支援を得て、1384年、臨濟宗方広寺（北区引佐町奥山）を開く。室町時代の禅僧を多く輩出した。
あんまりょうがん 安間了願	14世紀 南北朝時代	男	安間家の祖、楠木正行の家臣。『太平記』に北朝との戦いが記述されている。東海道と本坂道（姫街道）の結節点に、広大な居館群を設けた。戦国時代には浜松城下の東の戦略上の拠点。地名は江塚。
あしかがよしのり 足利義教	1394～1441 室町時代	男	室町幕府六代将軍。1432年、関東公方・足利持氏を牽制するため富士遊覧を試み、従者とともに当地の歌を詠む。「浜松の音はざざんざ」。引間宿から植松、白鳥、匂坂を経由したとみられる。
ばんりしゅうく 万里集九	1428～? 室町時代	男	禅僧、歌人。1485年、太田道灌の招きで関東に下る途中、引間にも滞在しこの地のようすを『梅花無尽蔵』に記した。「引間、市ハ富ミテ屋ハ千区（市場が盛んで町屋が千軒ある）」ほかの漢詩を詠んだ。
さいおくけんそうちょう 柴屋軒宗長	1448～1532 戦国時代	男	駿河島田宿出身の連歌師。今川家に仕え、引間にも滞在。当時の遠江の情勢を『宗長手記』などの記録にとどめている。引間城主は飯尾善四郎だと記す。斯波氏らとの攻防についても記している。
たけだしんげん 武田信玄	1521～1573 戦国時代	男	甲斐の戦国大名。今川家旧領を狙い徳川家康と対立、三方ヶ原合戦前後には、現浜松市域中北部のほとんど（姫街道以北）を掌握していた。家康を追い込むが、一連の進軍中に病没。
とよとみひでよし 豊臣秀吉	1537～1598 戦国時代	男	少年時代、尾張から出奔し頭陀寺の松下之綱に仕え、引間城にも同行する。帰郷して織田信長に仕え、天下統一後は、浜松の徳川家康を関東に移封し、堀尾吉晴を配すなど東海の諸城を一新した。
まつしたゆきつな 松下之綱	1537～1598 戦国時代	男	今川氏支配下の遠江で頭陀寺城主。少年時代の秀吉を家臣として引間城の飯尾氏に面会する。後年、天下人となった秀吉が之綱を遠江・久野城主に取り立てて大名家に列する。

表8 ゆかりの人物（その3）

名 前	時 代	性別	解 説
とくがわいえやす 徳川家康	1542～1616 戦国時代	男	三河松平氏の嫡子、今川義元の人質として駿河にあり、桶狭間以後岡崎で独立して遠江に侵攻し、1570年から浜松を居城とする。浜松在城17年間にて、一介の戦国大名から天下のNo.2に出世する。
とくがわのぶやす 徳川信康	1559～1579 戦国時代	男	家康の長男、家康が浜松に居城した時から岡崎城主をまかされる。武田方との内通を疑われ、堀江城さらに二俣城に預けられて蟄居、切腹。後、家康は供養のために清瀧寺を建立した。
つきやまごぜん 築山御前	?～1579 戦国時代	女	家康の正妻、信康の母。今川一門の姫だが、井伊家の血筋との説がある。武田方との内通が疑われ、信康助命のために岡崎から浜松城に向かう途中、佐鳴湖畔で殺害される。この谷を御前谷という。
ゆうきひでやす 結城秀康	1574～1607 戦国時代	男	家康の次男、浜名湖畔の中村家で誕生。小牧・長久手戦講和に際し、秀吉の養子(人質)となり、後、結城家を継いで大名に列す。松平家に復し、祭祀は出雲松平家(松江)に継承される。
とくがわひでただ 徳川秀忠	1579～1632 戦国時代	男	浜松城下で誕生した家康三男で、江戸幕府二代将軍。浜松生まれとしては唯一の天下人。早馬町の旧誕生屋敷跡付近に「誕生橋」がある。浜松城内にも「御誕生場」が設けられた。
さいごうのつぼね 西郷局	?～1589 戦国時代	女	西郷(現掛川市)出身。夫の戦死後浜松城に出仕、家康の妻となつて、三男秀忠と四男忠吉を生む。浜松城下の心造寺は、家康が秀忠の健勝を祈願して建立し、開基を西郷局とする。
おまのかた 於万の方	1548～1620 戦国時代	女	池鯉鮒(現愛知県知立市)の神官の娘、長勝院。侍女から家康の妻となつて、次男の秀康を宇布見・中村家で出産。正室・築山殿との確執があったという。結城家の養子となった秀康とともに福井で暮らす。
あちやのつぼね 阿茶局	1555～1637 戦国時代	女	武田家家臣・飯田直政の娘、未亡人。家康に召し出されて浜松城へ出仕した。万斛(現東区中郡町)の鈴木権右衛門家に預けられ、家康が通つた。鈴木家は、江戸時代に独礼庄屋をつとめている。
ほりおよしはる 堀尾吉晴	1543～1611 戦国時代	男	豊臣秀吉家臣、家康の関東移封後、秀吉の命によって家康旧領のうち浜松城主となり、天守を築くなど城と城下町を一新した。秀吉没後の関ヶ原合戦では家康に味方して、出雲・松江城主となる。
きはらよしつぐ 木原吉次	16世紀 戦国時代	男	旧姓鈴木。祖父の代から松平家に仕えた。木原村(現袋井市)に所領。家康の命により、浜松城築城の普請奉行となる。後、家康とともに江戸に赴き、日光東照宮造営など代々が大工として活躍した。
かんぜもとなお 観世元尚	～1577 戦国時代	男	観世流能楽師。戦乱つづく京都を避け、父とともに浜松で家康の庇護を受ける。家康長男の信康元服の際、観世流は浜松城で能を舞い信康の能の指南となる。元尚の子の代で観世流は再興する。
すみのくらりょうい 角倉了以	1554～1614 江戸時代	男	京都の豪商。秀吉から朱印状を得て海外貿易も展開した。河川交通路の開発に力を入れ、家康から天竜川を開削する命を受けてこれを実現し、天竜川中下流域の物流を拡大した。

表9 ゆかりの人物（その4）

名 前	時 代	性別	解 説
どくたんしょうけい 独湛性螢	1628～1706 江戸時代	男	中国僧。江戸時代に師の隠元とともに来日し、黄檗宗を日本に広める。旗本・近藤家の支援を得て、初山宝林寺や大雄寺など現浜松市付近に教線を展開した。黄檗宗本山・萬福寺の四世も務めた。
じょうえんいん 浄円院	1655～1726 江戸時代	女	徳川吉宗の生母、紀伊徳川家の居城・和歌山を出発し姫街道を經由し江戸までの旅程を記録する。姫街道気賀宿（北区細江町）での食事の献立が詳細に記され、近年再現された。
すぎうらくにあきら 杉浦国頭	1678～1740 江戸時代	男	浜松城下・諏訪神社の神官、国学者で歌人。養子として杉浦家を継ぐ。江戸滞在中に荷田春満に学び、その姪・真崎を妻とした。『曳駒拾遺』を著し、江戸時代中頃の浜松周辺の地誌を記す。
わたなべもうあん 渡辺蒙庵	1687～1775 江戸時代	男	医師、儒学者。京都にて医学と儒学を学び、浜松藩主・松平資訓に仕える。致仕後は浜松にて塾を開き教育と著述に専念した。賀茂真淵ら多くの門人を育てた。城下で歌会を開催している。
かものまぶち 賀茂真淵	1697～1769 江戸時代	男	伊場村に生まれる。浜松宿本陣梅谷（うめや）家に養子。荷田春満に師事し国学を志す。万葉集を研究し、多くの弟子を育てる。江戸にて田安宗武に仕え、日本橋浜町に隠居後も国学の講義と歌会をする。
こんどうもちゆき 近藤用随	1715～1781 江戸時代	男	気賀近藤家六代。宝永東海地震(1707)による津波で被害を受けた浜名湖畔の水田について、藺草の栽培を奨励して商品作物とする。細江神社境内にある藺草神社に祀られている。
はかまたよしなが 袴田喜長	1716～1791 江戸時代	男	二俣村（現天竜区）の庄屋。洪水のたびに天竜川から逆流する二俣川を見かね、私財を投じて鳥羽山の開削を行い、二俣川の流路を変更して減災を果たした。二俣では現在でも頌徳祭が行われる。
うちやままたつ 内山真龍	1740～1821 江戸時代	男	大谷村（現天竜区）の庄屋に生まれる。賀茂真淵らに師事して国学を学ぶ。遠江を幅広く取材して『遠江国風土記伝』を著す。江戸時代後半の本地域の地誌として注目され、写本も数多い。
たかばやしみちあきら 高林方朗	1769～1846 江戸時代	男	有玉下村の独礼庄屋、国学者。内山真龍、本居宣長に学ぶ。浜松藩主・水野忠邦が京都所司代に任じられた時、上京して国学を教授した。『二条日記』はその記録。賀茂真淵の顕彰につとめた。
もくじきごぎょう 木喰五行	1718～1810 江戸時代	男	甲斐出身の僧。安永2年(1773)、日本廻国と千体仏の成就を発願し、各地で仏像を刻んだ。市域では現浜北区や北区に逗留し、多くの仏像彫刻を残している。また奥山村で製作した自刻像が現存する。
いのうただたか 伊能忠敬	1745～1818 江戸時代	男	下総（現千葉県）出身、佐倉の伊能家を継ぎ、隠居後に暦学や測量を学ぶ。日本全国の海岸線を測量し、正確な日本地図を作製。浜松では、佐鳴湖や浜名湖の測量も手掛けた。
おおたなんぼ 大田南畝	1749～1823 江戸時代	男	幕臣、蜀山人と号す。1801年、大坂銅座への出向を命じられ、その道中記『改元紀行』（寛政から享和への改元の年に記述）にて、天竜川から浜松、今切れまでの当地の様子をくわしく記す。

表 10 ゆかりの人物（その5）

名 前	時 代	性別	解 説
しばこうかん 司馬江漢	1747～1818 江戸時代	男	江戸の蘭学者、また洋画を学んで西洋風の油彩画も描いた。1788年長崎への道中で掛川宿から秋葉山に参詣し、熊（現天竜区）を經由した経緯を書画とともに『江漢西遊日記』『西遊旅譚』に著した。
じっぺんしゃいっく 十返舎一九	1765～1831 江戸時代	男	駿府出身の戯作者。『東海道中膝栗毛』（続編を含む）を表し、現市内では天竜川の渡しから浜松宿での宿泊、舞坂宿を経て今切れの渡しまでを軽妙に描いている。
きよくていばきん 曲亭馬琴	1767～1848 江戸時代	男	山東京伝に師事し、『南総里見八犬伝』などで有名な江戸時代の読本作家。1802年、掛川から秋葉山に参詣したようすを『羈旅漫録』に記した。「この社近年もつとも繁昌なり」と表現している。
みずのただくに 水野忠邦	1794～1851 江戸時代	男	唐津藩主から転封を希望して浜松城主となり、念願の老中を務めた。新源太夫堀を開削するなど新田開発もしたが、佐鳴湖畔の三ツ山開墾では景観を破壊して地元から悪評。失脚して山形に移封された。
たけむらひろかげ 竹村広蔭	1793～1866 江戸時代	男	入野村周辺の移り変わりを記した『変化抄』を残す。歌人。近江八景（琵琶湖周辺の景観）に倣い、当時の文人とともに佐鳴八景を制定した。佐鳴湖畔で歌会を開催している。佐鳴湖公園に八景の碑がある。
あんどうひろしげ 安藤広重	1797～1858 江戸時代	男	歌川豊広の門人、江戸の浮世絵師、多くの道中ものや名所図を出版した。中でも東海道五十三次の連作が人気。当地では、見附（天竜川）、浜松から舞坂宿まで、何種類かの風景が描かれている。
おのええいざぶろう 尾上栄三郎	1829～1858 江戸時代	男	江戸の歌舞伎役者、各地で興行し、歌舞伎を広めた。浦川に歌舞伎を伝えたところで病没、同地に墓がある。浦川では墓地の祭祀とともに村歌舞伎を継承している。また、南区鶴見町に弟子の墓がある。
もりたやひこのじょう 森田屋彦之丞	19世紀 江戸時代	男	江戸の海苔商人、海苔職人の大森三次郎とともに江戸前の海苔養殖技術を舞坂に伝え一大産地とした。舞坂では「森田屋海苔祖神」として顕彰し、二人の供養塔が東海道沿いの宝珠院にある。
いのうええんりょう 井上延陵	～1897 近現代	男	井上八郎、旧幕臣。明治維新後の静岡藩に赴任し、浜松勤番組頭となる。堀留運河など浜松の殖産興業に尽力した。引間城跡に元城町東照宮を勧請して、徳川家の顕彰にもつとめた。
やまもとかなぎ 山本金木	1826～1906 近現代	男	宇布見村の神主・賀茂家に生まれ、父の実家、山本家の養子となり井伊谷・神宮寺村の渭伊神社の神官。遠州報国隊に参加し東京に従軍した。新設された井伊谷宮にて故郷での神官職を継続した。
つるみしんぺい 鶴見信平	1848～1914 近現代	男	半田村（現東区）の出身、鶴見家の養子となる。実業家として活躍し、浜松商工会議所の初代会頭、また初代浜松市長をつとめた。鉄道院浜松工場の誘致、浜名湖畔の養魚場建設などに尽力した。
やまはとらくす 山葉寅楠	1851～1915 近現代	男	紀州徳川藩士の次男。医療器具の技術者として浜松医学校の福島豊策の招きで浜松に職を得る。福島で紹介で元城小学校のオルガンを修理したことをきっかけに、浜松にて楽器製造会社を設立。
はっとりくらじろう 服部倉治郎	1853～1920 近現代	男	東京深川出身。養魚事業拡大にあたり、愛知県立水産試験場に勤めていた中村正輔の助言と協力を得て、浜名湖畔にてウナギの養殖とスッポンの養殖をはじめた。

表 11 ゆかりの人物（その6）

名 前	時 代	性別	解 説
ひらのまたじゅうろう 平野又十郎	1852～1928 近現代	男	掛塚村（現磐田市）出身。貴布祢村（現浜北区）平野家の養子となり五代目又十郎を継ぐ。同心遠慮講という貯蓄組合を組織し、後に遠州銀行（静岡銀行の前身）を創設する。
こやまみい 小山みい	1821～1892 近現代	女	本郷村（現南区）出身、織物の名手。近在の織り手を集めて組合を結成し、遠州織物の工業化を果たし、また女性の職業参加の先駆となった。蒲神明宮に灯籠一對を寄進している。「みゑ」が本名とも。
まつしまじっこ 松島十湖	1849～1926 近現代	男	吉平。豊西村（現東区）出身の実業家、俳人。大瀬村の棚木夷白らに学ぶ。引佐亀玉郡長などを務める。「浜松は出世城なり初鯉」の句を詠む。地元にある十湖池がピオトープとして再現されている。
きがりん 気賀林	1810～1883 近現代	男	林右衛門。気賀の生まれ。三方原台地を開拓して茶園「百里園」を開設し、また浜松城下と浜名湖を結ぶ堀留運河の開削に参画するなど殖産興業に尽力した。
おおたもちしげ 太田用成	1844～1912 近現代	男	「ようせい」は通称。飯田藩医太田家の養子。アメリカ人医師ヘボンに師事して医学と英語を学ぶ。浜松医学校校長時代に『七科約説』を全翻訳し出版して、近代医療の発展に努めた。
きんばらめいぜん 金原明善	1832～1923 近現代	男	安間村（現東区）の代官。のち和田村村長、静岡県議。天竜川の洪水を体験し、天竜川下流の治水工事、また中流域の植林などの事業をすすめた。三方原開墾、金融などの事業にも着手した。
すずきかくま 鈴木覚馬	1861～1937 近現代	男	草崎（現磐田市内）出身の郷土史家、福田小学校校長。後に浜松中学校（現浜松北高）教諭として浜松在住。約 20 年の年月をかけて『岳南史』を出版。※この場合の岳南は静岡県をいう。
もりおうがい 森鷗外	1862～1922 近現代	男	作家、軍医。1912 年乃木希典の殉死を契機に歴史小説に転じ、『渋江抽斎』を描く。家康浜松在城期を題材とした作品がある。旧浜松市歌を作詞。同市歌の作曲は、本居宣長の曾孫にあたる本居長世。
いとうようぞう 伊東要蔵	1864～1934 近現代	男	慶応義塾大学において福沢諭吉らに師事。近代の実業家、中川村の伊東家に養子。浜松から三方原、金指を経由して奥山へ向かう軽便鉄道・奥山線の開設などに尽力した。
やなぎたくにお 柳田国男	1875～1962 近現代	男	『遠野物語』などの著作がある民俗学者。日本民俗学の祖。『秋風帖』で浜松から二俣、熊を経由した紀行文を掲載する。市内の民俗芸能にも注目し、招かれて講演会も行った。
おりくちしのぶ 折口信夫	1887～1953 近現代	男	民俗学者、歌人。釋迢空と号す。新野から水窪へ足を踏み入れ、山住や京丸にも滞在した。各地に歌碑が残る。昭和 5 年、西浦田楽を訪ね、その年のうちの東京公演（御開帳）を実現した。
なかむらよしへい 中村與資平	1880～1963 近現代	男	天王村（現東区）出身の建築家。手がけた建物のうちでは、市内にある浜松銀行協会、遠州銀行本店（現静岡銀行）のほか、静岡市庁舎、静岡県庁本館、豊橋市公会堂などが現存する。
すずきみちお 鈴木道雄	1887～1982 近現代	男	芳川村（現南区）出身。技術者、実業家。大工職から織機製作に転じ、鈴木式織機製作所を設立した。さらにオートバイ、軽自動車の生産に乗り出し、鈴木自動車工業の社長となった。

表 12 ゆかりの人物（その7）

名 前	時 代	性別	解 説
たかのつぎ 鷹野つぎ	1890～1943 近現代	女	浜松町下垂(現中区)出身の小説家、島崎藤村の「処女地」同人。晩年の著作のうちに東京にて幼少期の浜松を回想した『四季と子供』があり、近代はじめころの浜松を郷愁とともに記述する。
たかばやしひょうえ 高林兵衛	1892～1950 近現代	男	近代の高林家当主、遠州病院の開設などにつとめた。柳宗悦と出会った6年間に民芸運動に傾倒、日本民藝美術館を自宅内に開館。和時計のコレクションが国立科学博物館に寄贈されている。
かわむらかねと 川村カ子ト	1893～1977 近現代	男	北海道出身のアイヌ、測量技師。三信鉄道(現飯田線)の建設工事で中央構造線沿いの山峡の難所を担当、全線開通にこぎつける。カ子トの功績を紹介するための演劇が創作されている。
たばたまさじ 田畑政治	1898～1984 近現代	男	浜松町成子の造り酒屋出身、実家では浜松で初めてサイダーを発売。浜名湾遊泳協会の設立に尽力、古橋広之進らを育て、1940年に断念した東京オリンピックを1964年に再度誘致することに成功した。
たかやなぎけんじろう 高柳健次郎	1899～1990 近現代	男	安間新田村(現東区)出身の工学博士。浜松高等工業学校(現静岡大学工学部)の助教授となり、当時まだ空想でしかなかったテレビジョンの研究に没頭した。1935年にブラウン管方式を成功させた。
しらいてつぞう 白井鐵造	1900～1983 近現代	男	宝塚歌劇の演出家、「すみれの花」で始まる同歌劇団テーマ曲の作者。白井の出身地という縁で、天竜区春野町は歌劇団との交流とスマイレの栽培をつづけている。
なかみちさくじ 中道朔爾	1901～1957 近現代	男	薬師新田(東区)出身で後、積志小学校教員、「土のいろ」会員、郷土史研究者。村の生活に注目し『積志村民俗誌』を著す。また、遠江の童謡や浜松張り子を紹介している。
ほんだそういちろう 本田宗一郎	1906～1991 近現代	男	光明村(現天竜区)の出身。オートバイを独学で開発し、本田技研工業を一代で築いた。同氏を記念するものづくり伝承館は、国の登録有形文化財・旧二俣町役場をリノベーションした施設。
あきのふく 秋野不矩	1908～2001 近現代	女	二俣村(現天竜区)出身の日本画家、市内の風景や民俗芸能なども画題とした。生前、生家に近い丘の上に開館した秋野不矩美術館は藤森照信の設計。
のじませいじ 野島青茲	1915～1972 近現代	男	細江町気賀出身の日本画家、松岡映丘(柳田国男の実弟、日本画家)に師事。蘭草栽培のようすなど郷土の題材も描いた。実家は、複数の建物が国の登録有形文化財となっている吉野屋。
きのしたけいすけ 木下恵介	1912～1999 近現代	男	浜松町出身の映画監督。代表作のうちに、『涙』など昭和期の浜松の風景を写したものがある。戦時中は春野町に疎開していた。国登録の有形文化財・旧浜松銀行協会は現在木下恵介記念館として公開中。
あらいつねやす 新井恒易	1912～1999 近現代	男	埼玉県出身の民俗研究者、とくに田遊びに注目した。『中世芸能の研究』では、三河各地とともに、黒沢・神沢・懐山・寺野・川名など、遠江のひよんどりとおくないを取材し、紹介した。

3 主な文化財

(1) 有形文化財建造物

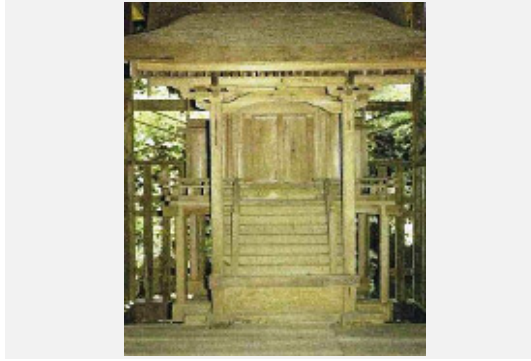
表 13 指定等建造物

No.	指定等	名称	所有者	所在地	指定等年月日
1	国指定	方広寺七尊菩薩堂	方広寺	北区引佐町奥山	1954年 9月 17日
2	国指定	中村家住宅 附 家相図	浜松市	西区雄踏町宇布見	1973年 6月 2日
3	国指定	宝林寺 仏殿・方丈	宝林寺	北区細江町中川	1981年 6月 5日
4	国指定	浜名惣社神明宮本殿	浜名惣社神明宮	北区三ヶ日町三ヶ日	1993年 4月 20日
5	国指定	鈴木家住宅 主屋・釜屋	個人	北区引佐町の場	2007年 6月 18日
6	県指定	旧王子製紙製品倉庫	浜松市	天竜区春野町気田	1977年 3月 18日
7	県指定	撰社天羽槌雄神社	浜名惣社神明宮	北区三ヶ日町三ヶ日	1979年 11月 19日
8	県指定	宝林寺山門	宝林寺	北区細江町中川	1990年 3月 20日
9	県指定	龍潭寺伽藍 附 棟札 山号額	龍潭寺	北区引佐町井伊谷	1995年 3月 20日
10	市指定	大雄寺山門	大雄寺	中区天神町	1961年 4月 12日
11	市指定	気賀関所本番所	個人	北区細江町気賀	1966年 1月 27日
12	市指定	甘露寺中門	甘露寺	東区中郡町	1966年 3月 14日
13	市指定	秋葉神社神門	秋葉神社	天竜区春野町領家	1966年 12月 26日
14	市指定	東林寺山門 附 棟札	東林寺	北区細江町気賀	1968年 11月 25日
15	市指定	中村家住宅長屋門	浜松市	西区雄踏町宇布見	1980年 3月 17日
16	市指定	上島新田組秋葉山常夜燈鞘堂	新田組	浜北区上島	1982年 5月 22日
17	市指定	宝篋印塔	個人	天竜区水窪町地頭方	1983年 2月 15日
18	市指定	山住神社神門	山住神社	天竜区水窪町山住	1988年 3月 9日
19	市指定	白柳家住宅	個人	北区細江町気賀	1988年 3月 10日
20	市指定	宝林寺報恩堂	宝林寺	北区細江町中川	1988年 11月 1日
21	市指定	瑞雲院山門	瑞雲院	天竜区春野町堀之内	1990年 1月 24日
22	市指定	瑞雲院鐘楼	瑞雲院	天竜区春野町堀之内	1990年 1月 24日
23	市指定	内山家住宅長屋門	浜松市	天竜区大谷	1991年 2月 28日
24	市指定	旧舞坂脇本陣	浜松市	西区舞阪町舞阪	1997年 4月 18日
25	市指定	御室家住宅長屋門	個人	天竜区佐久間町佐久間	1997年 7月 8日
26	市指定	小松秋葉大鳥居	秋葉神社	浜北区小松	2005年 3月 24日
27	市指定	小松秋葉山常夜燈	秋葉神社	浜北区小松	2005年 3月 24日
28	市指定	静岡銀行浜松営業部本館(旧遠州銀行本店)	静岡銀行	中区田町	2005年 12月 20日
29	市指定	旧浜松銀行協会	浜松市	中区栄町	2009年 3月 2日
30	市指定	実相寺伽藍本堂・観音堂・庚申堂	実相寺	北区引佐町金指	2017年 2月 23日
34	国登録	天竜浜名湖鉄道機関車扇形車庫 ほか26件	天竜浜名湖鉄道	天竜区二俣町阿蔵ほか	1998年 12月 11日 2011年 1月 26日
36	国登録	凱旋記念門	六所神社	北区引佐町渋川	2002年 2月 12日
37	国登録	旧二俣町役場	浜松市	天竜区二俣町二俣	2003年 1月 31日
38	国登録	竹山家住宅主屋	個人	東区天王町	2005年 11月 10日
62	国登録	旧住吉浄水場ポンプ室 ほか5件	浜松市	中区住吉五丁目	2012年 2月 23日
67	国登録	旧常光水源地ポンプ室	浜松市	東区常光町	2012年 2月 23日
71	国登録	吉野屋主屋 ほか3件	個人	北区細江町気賀	2015年 3月 26日
72	国登録	ヤマタケの蔵北の蔵 ほか2件	浜松市	天竜区二俣町二俣	2015年 8月 4日
76	国登録	旧田代家住宅主屋 ほか1件	浜松市	天竜区二俣町鹿島	2015年 11月 17日
77	国登録	旧気多村立勝坂小学校校舎	勝坂自治会	天竜区春野町豊岡	2016年 2月 25日
78	国登録	前嶋家住宅主屋	個人	北区引佐町川名	2016年 8月 1日
81	国登録	明治屋醬油店舗兼主屋 ほか2件	個人	浜北区小松	2017年 5月 2日
86	国登録	高林家住宅主屋・隠居 ほか4件	個人	東区有玉南町	2018年 3月 27日
87	国登録	方広寺本堂 ほか21件	方広寺	北区引佐町奥山	2019年 9月 10日
109	国登録	大福寺庫裏	大福寺	北区三ヶ日町福長	2019年 12月 5日



图 13 指定有形文化財建造物

ほうこうじしちぞんぼさつどう
方広寺七尊菩薩堂（北区引佐町奥山：国指定重要文化財建造物）



臨済宗方広寺派の本山として弘和4年(1384)年に開創した方広寺は、半僧坊の信仰でも栄え、山中に大伽藍を誇ったが、明治14年(1881)の火災でほぼ全山が灰燼に帰した。唯一焼失を免れたのが七尊菩薩堂である。応永8年(1401)に建立したもので、静岡県下では、現存最古の木造建造物である。覆屋の中に間口90cm、屋根は流造柿葺の建物がある。創建年に近く、鎌倉末期の建築様式を伝えている。

なお、大正期に再建された方広寺本堂ほか22棟は、近代の寺院建築の好例として国の登録文化財となっている。

なかむらけいじゅうたく
中村家住宅（西区雄踏町宇布見：国指定重要文化財建造物）



中村家は戦国時代に、今川家、徳川家に仕え、浜名湖の舟運(兵糧運搬)をまかされた。浜名湖南東岸の入江に面し、浜名湖内水面だけでなく、新川や佐鳴湖を通じて浜松城下(引間城下)を結ぶ重要な拠点にあたる。文明15年(1483)には居住の記録があるが、現在の建物には元禄元年(1688)の棟瓦がある。桁行21.3m、梁間11.2m、面積238.7㎡、寄棟造茅葺の建物で棟を棧瓦で抑えている。床上げの部屋は計10室、東側は広い土間となっている。

屋敷内には家康次男・結城秀康の胞衣塚がある。

ほうりんじ ぶつでん ほうじょう
宝林寺 仏殿・方丈（北区細江町中川：国指定重要文化財建造物）



江戸時代に明王朝時代の中国から隠元らによって禅宗の一派・黄檗宗がもたらされた。旗本・近藤家が隠元とともに来日した独湛を招いて開創した。開祖を隠元とする。

仏殿は、寛文8年(1668)建立。桁行17.9m、梁間16.4m、入母屋造柿葺の建物である。昭和60年から6年かけて解体修理を行い、創建当初の姿に復元した。方丈は、享保元年(1716)の再建。内部は間仕切りがない。桁行19.2m、梁間12.5m、寄棟造茅葺の建物である。黄檗宗の伝来初期の建築であり、同宗特有の中国式の様式が随所に見られる。

はまなそうじゃしんめいぐうほんでん
浜名惣社神明宮本殿（北区三ヶ日町三ヶ日：国指定重要文化財建造物）



江戸時代に明王朝時代の中国から隠元らによって禅宗の一派・黄檗宗がもたらされた。旗本・近藤家が隠元とともに来日した独湛を招いて開創した。開祖を隠元とする。

仏殿は、寛文8年(1668)建立。桁行17.9m、梁間16.4m、入母屋造柿葺の建物である。昭和60年から6年かけて解体修理を行い、創建当初の姿に復元した。方丈は、享保元年(1716)の再建。内部は間仕切りがない。桁行19.2m、梁間12.5m、寄棟造茅葺の建物である。黄檗宗の伝来初期の建築であり、同宗特有の中国式の様式が随所に見られる。

すずきけじゅうたく

鈴木家住宅 主屋・釜屋（北区引佐町の場：国指定重要文化財建造物）



鈴木家住宅は、浜松・金指方面から伊平を経て、三河の長篠・鳳来寺方面へ向かう山間の旧街道沿いにある。主屋は桁行 8.2m、梁間 7.4m、寄棟造茅葺の建物である。主屋に近接して棟方向の異なる釜屋を建てて連結し、内部を一体的空間とした釜屋造りと呼ばれる分棟型の民家である。釜屋は文政 4 年(1821)の建造とある。主屋も同じころに建てられたと推定される。新城市の望月家住宅(国重文)とともに、静岡県西部から愛知県東部にかけて分布していた江戸時代後期の釜屋造り形式の数少ない現存建造物である。

きゅうおうじせいしせいひんそうこ

旧王子製紙製品倉庫（天竜区春野町気田：県指定有形文化財建造物）



明治 22 年(1889)、後の王子製紙が日本で最初の木材パルプ工場として建設した。気田川流域は森林資源が豊富で、水運が利用できた。最盛期には 300 名以上の従業員がいた広大な工場だったが、森林資源の枯渇により大正 12 年(1923 年)に廃止され、この建物 1 棟だけが現春野中学校敷地に残る。創業当時の建物で、幅 18.2m、奥行 9.1m、外壁に赤レンガを使用し屋根は寄棟造で日本瓦という和洋折衷である。上げ下げ式のガラス窓が等間隔に配置されている。校門脇には「木材パルプ発祥之地」という記念碑がある。

りょうたんじがらん

龍潭寺伽藍（北区引佐町井伊谷：県指定有形文化財建造物）



井伊谷西端の丘陵にあり、かつては北に隣接する井伊谷宮境内も寺域とした。この地出身の井伊家歴代の菩提寺。現在は臨済宗妙心寺派。本堂は延宝 4 年(1676)の再建で、桁行 9 間、梁間 6 間と規模が大きい。屋根は平成 20～24 年(2008～2012)の修理で瓦葺きから金属板葺きに改め、創建当時の柿葺きのイメージに近づけている。本堂の北側に国の名勝に指定されている庭園がある。伽藍を構成する庫裏(1815)、山門、開山堂、井伊家霊屋、稲荷堂は、江戸時代に完成しており、江戸時代の禅宗寺院の形態を伝える。

きゅうはままつぎんこうきょうかい

旧浜松銀行協会（中区栄町：市指定有形文化財建造物）



昭和 5 年(1930 年)、中区栄町に、浜松銀行集会所として建設された。設計は浜松市出身の建築家「中村與資平」。鉄筋コンクリート造 2 階建て、一部地下 1 階の建物。施工は大林組、内装は松坂屋家具部、家具は日本楽器(現ヤマハ)が担当し、浜松の銀行を象徴する建物に造り上げられた。間口 20.0m、奥行 19.1mほどで、玄関ポーチがつく。地下室は館内給湯用のボイラー室である。現在は、「二十四の瞳」などの作品で知られる浜松市出身の映画監督「木下恵介」の記念館およびギャラリーとして活用されている。

(2) 有形文化財美術工芸品

① 絵画

表 14 指定等絵画（所有者が、社寺又は浜松市のみを掲載）

No.	指定等	区分	種別	名称	所有者	所在地	指定等年月日
1	国指定	有形	絵画	絹本着色普賢十羅刹女像	大福寺	北区三ヶ日町福長	1900年 4月 7日
2	県指定	有形	絵画	紙本金地著色遊楽図六曲屏風	龍潭寺	北区引佐町井伊谷	1977年 3月 18日
3	県指定	有形	絵画	紙本着色独湛禪師画像	宝林寺	北区細江町中川	1977年 12月 20日
4	県指定	有形	絵画	紙本着色近藤貞用夫妻画像	宝林寺	北区細江町中川	1977年 12月 20日
5	県指定	有形	絵画	絹本着色無文元選像	方広寺	北区引佐町奥山	1977年 12月 20日
6	県指定	有形	絵画	蟲魚帖稿	浜松市	中区松城町	2013年 3月 15日
7	市指定	有形	絵画	紙本着色聖徳太子像(寛政三年七月画の記がある, 内山真龍筆)	玖延寺	天竜区二俣町阿蔵	1961年 12月 1日
8	市指定	有形	絵画	紙本淡彩神馬図(丙午(弘化三年)の記がある, 大久保一丘筆)	井伊谷宮	北区引佐町井伊谷	1977年 4月 9日
9	市指定	有形	絵画	紙本墨画布袋図(白隠慧鶴筆)	方広寺	北区引佐町奥山	1977年 4月 9日
10	市指定	有形	絵画	板地著色牡丹菊花図(藤玄谷筆)	瑞雲院	天竜区春野町堀之内	1977年 12月 22日
11	市指定	有形	絵画	紙本着色法源禪師像	宝林寺	北区細江町中川	1980年 1月 1日
12	市指定	有形	絵画	板地著色二十四孝図(元禄六年七月奉納の記がある)	庚申寺	浜北区宮口	1982年 5月 22日
13	市指定	有形	絵画	絹本着色寿老人花鳥図(狩野常信筆)	善住寺	天竜区水窪町地頭方	1982年 9月 17日
14	市指定	有形	絵画	絹本着色両界曼荼羅図	大福寺	北区三ヶ日町福長	1984年 11月 19日
15	市指定	有形	絵画	絹本着色地藏菩薩像(靈仲の賛がある)	華藏寺	北区三ヶ日町日比沢	1987年 9月 22日
16	市指定	有形	絵画	慈眼寺庚申堂天井板絵	金剛寺	北区三ヶ日町駒場	1992年 6月 18日
17	市指定	有形	絵画	絹本着色釈迦十六善神像	洞泉寺	天竜区大谷	1994年 3月 29日
18	市指定	有形	絵画	紙本着色春鶯囀図(野島青茲筆)	浜松市	北区細江町気賀	2004年 3月 15日
19	市認定	有形	絵画	随縁寺涅槃図	随縁寺	西区村櫛町	2017年 3月 22日
20	市認定	有形	絵画	随縁寺十六善神図	随縁寺	西区村櫛町	2017年 3月 22日
21	市認定	有形	絵画	実相寺涅槃図	実相寺	北区引佐町	2017年 3月 22日
22	市認定	有形	絵画	正泉寺涅槃図	正泉寺	北区引佐町	2017年 3月 22日
23	市認定	有形	絵画	本龍寺涅槃図	本龍寺	北区引佐町別所	2017年 3月 22日
24	市認定	有形	絵画	長光寺涅槃図	長光寺	天竜区二俣町二俣	2017年 3月 22日
25	市認定	有形	絵画	玖延寺涅槃図	玖延寺	天竜区二俣町阿蔵	2017年 3月 22日
26	市認定	有形	絵画	栄林寺涅槃図	栄林寺	天竜区二俣町二俣	2017年 3月 22日
27	市認定	有形	絵画	長養寺涅槃図	長養寺	天竜区船明	2017年 3月 22日
28	市認定	有形	絵画	宝珠寺観音堂天井絵	宝珠寺	東区上新屋町	2018年 3月 22日
29	市認定	有形	絵画	宝珠寺涅槃図	宝珠寺	東区上新屋町	2018年 3月 22日
30	市認定	有形	絵画	宝珠寺出山釈迦図	宝珠寺	東区上新屋町	2018年 3月 22日
31	市認定	有形	絵画	宝珠寺の頂相群	宝珠寺	東区上新屋町	2018年 3月 22日
32	市認定	有形	絵画	宝珠寺達磨図	宝珠寺	東区上新屋町	2018年 3月 22日
33	市認定	有形	絵画	宝珠寺十六善神図	宝珠寺	東区上新屋町	2018年 3月 22日
34	市認定	有形	絵画	金刀比羅神社格天井絵	金刀比羅神社	浜北区尾野	2019年 3月 15日
35	市認定	有形	絵画	清瀧寺涅槃図	清瀧寺	天竜区二俣町二俣	2019年 3月 15日
36	市認定	有形	絵画/書跡	雄踏町ゆかりの書画	浜松市	西区雄踏町宇布見	2020年 3月 27日

② 彫刻

表 15 指定等彫刻（所有者が、社寺又は浜松市のみを掲載）（その1）

No.	指定等	区分	種別	名称	所有者	所在地	指定年月日
1	国指定	有形	彫刻	木造千手観音立像	摩訶耶寺	北区三ヶ日町摩訶耶	1915年 3月 26日
2	国指定	有形	彫刻	木造不動明王立像	摩訶耶寺	北区三ヶ日町摩訶耶	1923年 3月 28日
3	国指定	有形	彫刻	木造地藏菩薩立像 附 像内納入品	岩水寺	浜北区根堅	2011年 6月 27日
4	国指定	有形	彫刻	木造釈迦如来及両脇侍坐像	方広寺	北区引佐町奥山	2014年 8月 21日
5	県指定	有形	彫刻	古面	息神社	西区雄踏町宇布見	1968年 3月 19日
6	県指定	有形	彫刻	獅子頭	息神社	西区雄踏町宇布見	1968年 3月 19日
7	県指定	有形	彫刻	木造大日如来坐像	光禪寺	東区大瀧町	1974年 4月 18日
8	県指定	有形	彫刻	木造釈迦如来坐像	華藏寺	北区三ヶ日町日比沢	1974年 4月 18日
9	県指定	有形	彫刻	木造薬師如来坐像	大福寺	北区三ヶ日町福長	1974年 4月 18日
10	県指定	有形	彫刻	木造阿弥陀如来坐像	摩訶耶寺	北区三ヶ日町摩訶耶	1974年 4月 18日
11	県指定	有形	彫刻	木造金剛力士立像	摩訶耶寺	北区三ヶ日町摩訶耶	1974年 4月 18日
12	県指定	有形	彫刻	能面父尉	宇志八幡宮	北区三ヶ日町宇志	1977年 3月 18日

表 16 指定等彫刻（所有者が、社寺又は浜松市のみを掲載）（その2）

No.	指定等	区分	種別	名称	所有者	所在地	指定等年月日
13	県指定	有形	彫刻	能面鉢巻悪尉	宇志八幡宮	北区三ヶ日町宇志	1977年 12月 20日
14	県指定	有形	彫刻	王の舞面	津毛利神社	南区参野町	1981年 3月 16日
15	県指定	有形	彫刻	木造金剛力士立像	大福寺	北区三ヶ日町福長	2008年 3月 21日
16	県指定	有形	彫刻	木造釈迦如来坐像及び両脇侍像(釈迦如来坐像の背面に寛文七年四月十六日、洛陽大仏師法橋康祐の銘あり) 木造達磨大師坐像・伝武帝倚像 木造二十四善神立像	宝林寺	北区細江町中川	2011年 12月 2日
17	市指定	有形	彫刻	木造毘沙門天立像	毘沙門寺	南区石原町	1960年 8月 25日
18	市指定	有形	彫刻	木造吉祥天女立像	方広寺	北区引佐町奥山	1962年 1月 5日
19	市指定	有形	彫刻	木造准胝観音立像	方広寺	北区引佐町奥山	1962年 1月 5日
20	市指定	有形	彫刻	木造子安観音立像	方広寺	北区引佐町奥山	1962年 1月 5日
21	市指定	有形	彫刻	木造木喰五行坐像	浜松市	中区蛸塚四丁目	1964年 11月 11日
22	市指定	有形	彫刻	木造馬頭観音立像	西大山教会	西区大山町	1965年 3月 12日
23	市指定	有形	彫刻	木造不動明王立像	西大山教会	西区大山町	1965年 3月 12日
24	市指定	有形	彫刻	木造毘沙門天立像	西大山教会	西区大山町	1965年 3月 12日
25	市指定	有形	彫刻	木造大日如来坐像、木造天部立像	大円寺	北区細江町気賀	1966年 1月 27日
26	市指定	有形	彫刻	木造十王坐像(木喰五行作)	寿龍院	北区引佐町井伊谷	1966年 2月 21日
27	市指定	有形	彫刻	木造葬頭河婆半跏像(木喰五行作)	寿龍院	北区引佐町井伊谷	1966年 2月 21日
28	市指定	有形	彫刻	木造阿弥陀如来立像 附 像内納入品	法蔵寺	南区白羽町	1966年 11月 15日
29	市指定	有形	彫刻	木造馬頭観音坐像	長楽寺	北区細江町気賀	1968年 11月 25日
30	市指定	有形	彫刻	木造大日如来坐像	華蔵寺	北区三ヶ日町日比沢	1969年 2月 14日
31	市指定	有形	彫刻	木造阿弥陀如来坐像	華蔵寺	北区三ヶ日町日比沢	1969年 2月 14日
32	市指定	有形	彫刻	能面	大福寺	北区三ヶ日町福長	1969年 2月 14日
33	市指定	有形	彫刻	木造薬師如来坐像	龍谷寺	南区飯田町	1970年 7月 20日
34	市指定	有形	彫刻	木造十王坐像(木喰五行作)	徳泉寺	浜北区堀谷	1970年 12月 23日
35	市指定	有形	彫刻	木造葬頭河婆半跏像(木喰五行作)	徳泉寺	浜北区堀谷	1970年 12月 23日
36	市指定	有形	彫刻	厨子入金銅十一面観音立像(兜前立)	井伊谷宮	北区引佐町井伊谷	1977年 4月 9日
37	市指定	有形	彫刻	厨子入金銅苦行釈迦像	方広寺	北区引佐町奥山	1977年 4月 9日
38	市指定	有形	彫刻	木造聖観音立像	両光寺	中区富塚町	1977年 4月 14日
39	市指定	有形	彫刻	木造大日如来坐像	6区大日堂	北区引佐町井伊谷	1977年 4月 19日
40	市指定	有形	彫刻	木造大日如来坐像	林慶寺	北区滝沢町	1979年 7月 17日
41	市指定	有形	彫刻	木造地藏菩薩立像、木造千体地藏菩薩立像	長徳寺	北区細江町広岡	1981年 1月 1日
42	市指定	有形	彫刻	木造十一面観音立像	秋葉寺	天竜区春野町領家	1982年 3月 31日
43	市指定	有形	彫刻	木造伝勝軍地藏立像	秋葉寺	天竜区春野町領家	1982年 3月 31日
44	市指定	有形	彫刻	木造四天王立像	秋葉寺	天竜区春野町領家	1982年 3月 31日
45	市指定	有形	彫刻	木造聖観音坐像	秋葉寺	天竜区春野町領家	1982年 3月 31日
46	市指定	有形	彫刻	木造男神坐像、木造男神立像	小国神社	天竜区春野町杉	1983年 3月 8日
47	市指定	有形	彫刻	木造阿弥陀如来坐像	玖延寺	天竜区二俣町阿蔵	1984年 1月 23日
48	市指定	有形	彫刻	木造薬師如来坐像	長月寺	天竜区長沢	1984年 11月 13日
49	市指定	有形	彫刻	木造男神立像	細江神社	北区細江町気賀	1998年 4月 14日
50	市指定	有形	彫刻	木造男神立像	細江神社	北区細江町気賀	1998年 4月 14日
51	市指定	有形	彫刻	木造牛頭天王立像	細江神社	北区細江町気賀	1998年 4月 14日
52	市指定	有形	彫刻	木造牛頭天王立像	細江神社	北区細江町気賀	1998年 4月 14日
53	市指定	有形	彫刻	木造薬師如来立像	玖延寺	天竜区二俣町阿蔵	1998年 9月 25日
54	市指定	有形	彫刻	木造阿弥陀如来坐像	龍雲寺	西区入野町	2009年 3月 2日
55	市認定	有形	彫刻	随縁寺大日如来像	随縁寺	西区村楠町	2017年 3月 22日
56	市認定	有形	彫刻	頭陀寺弘法大師像	頭陀寺	南区頭陀寺町	2017年 3月 22日
57	市認定	有形	彫刻	頭陀寺地藏菩薩像	頭陀寺	南区頭陀寺町	2017年 3月 22日
58	市認定	有形	彫刻	長興寺聖観世音菩薩像	長興寺	北区引佐町伊平	2017年 3月 22日
59	市認定	有形	彫刻	宝珠寺子安地藏菩薩像	宝珠寺	東区上新屋町	2018年 3月 22日
60	市認定	有形	彫刻	宝珠寺延命地藏菩薩像	宝珠寺	東区上新屋町	2018年 3月 22日
61	市認定	有形	彫刻	宝珠寺聖徳太子孝養像	宝珠寺	東区上新屋町	2018年 3月 22日
62	市認定	有形	彫刻	宝珠寺岩戸観世音菩薩像	宝珠寺	東区上新屋町	2018年 3月 22日
63	市認定	有形	彫刻	上新屋岩戸観音堂の諸仏	宝珠寺	東区上新屋町	2018年 3月 22日
64	市認定	有形	彫刻	宝珠寺聖徳太子撰政像	宝珠寺	東区上新屋町	2018年 3月 22日
65	市認定	有形	彫刻	宝珠寺達磨大師像	宝珠寺	東区上新屋町	2018年 3月 22日
66	市認定	有形	彫刻	大通院釈迦如来像	大通院	南区新橋町	2018年 3月 22日
67	市認定	有形	彫刻	岩水寺阿弥陀如来像	岩水寺	浜北区根堅	2018年 3月 22日
68	市認定	有形	彫刻	岩水寺大日如来像	岩水寺	浜北区根堅	2018年 3月 22日
69	市認定	有形	彫刻	岩水寺聖徳太子像	岩水寺	浜北区根堅	2018年 3月 22日
70	市認定	有形	彫刻	岩水寺青銅阿弥陀如来像	岩水寺	浜北区根堅	2018年 3月 22日
71	市認定	有形	彫刻	岩水寺不動明王像	岩水寺	浜北区根堅	2018年 3月 22日
72	市認定	有形	彫刻	岩水寺毘沙門天像	岩水寺	浜北区根堅	2018年 3月 22日
73	市認定	有形	彫刻	岩水寺愛染明王像	岩水寺	浜北区根堅	2018年 3月 22日
74	市認定	有形	彫刻	岩水寺薬師如来像	岩水寺	浜北区根堅	2018年 3月 22日
75	市認定	有形	彫刻	岩水寺十一面観音像	岩水寺	浜北区根堅	2018年 3月 22日

表 17 指定等彫刻（所有者が、社寺又は浜松市のみを掲載）（その3）

No.	指定等	区分	種別	名称	所有者	所在地	認定年月日
76	市認定	有形	彫刻	岩水寺千手観音像	岩水寺	浜北区根堅	2018年 3月 22日
77	市認定	有形	彫刻	岩水寺妙見菩薩像	岩水寺	浜北区根堅	2018年 3月 22日
78	市認定	有形	彫刻	岩水寺地安坊大権現像	岩水寺	浜北区根堅	2018年 3月 22日
79	市認定	有形	彫刻	岩水寺十二神将像	岩水寺	浜北区根堅	2018年 3月 22日
80	市認定	有形	彫刻	旧熊切小学校木造校舎玄関彫刻	浜松市	天竜区春野町宮川	2018年 3月 22日
81	市認定	有形	彫刻	西隠寺椿薬師像	西隠寺	浜北区寺島	2019年 3月 15日
82	市認定	有形	彫刻	宝珠寺半僧坊大権現像	宝珠寺	東区上新屋町	2020年 3月 27日

③ 工芸品

表 18 指定等工芸品（所有者が、社寺又は浜松市のみを掲載）

No.	指定等	区分	種別	名称	所有者	所在地	指定等年月日
1	国指定	有形	工芸品	太刀 銘安繩(備前)	秋葉神社	天竜区春野町領家	1922年 4月 13日
2	国指定	有形	工芸品	太刀 銘弘次	秋葉神社	天竜区春野町領家	1923年 3月 28日
3	国指定	有形	工芸品	太刀 銘来国光	秋葉神社	天竜区春野町領家	1923年 3月 28日
4	国指定	有形	工芸品	太刀 銘国綱	井伊谷宮	東京都台東区	1925年 4月 24日
5	国指定	有形	工芸品	金銅装笈	大福寺	北区三ヶ日町福長	1950年 8月 29日
6	国指定	有形	工芸品	刺繍不動明王二童子像掛幅	浜松市	中区松城町	1960年 6月 9日
7	県指定	有形	工芸品	梵鐘	長楽寺	北区細江町気賀	1957年 12月 25日
8	市指定	有形	工芸品	横笛(伝青葉の笛)	寺野六所神社	北区引佐町渋川	1962年 1月 5日
9	市指定	有形	工芸品	鰐口(文永五年十二月の銘がある)	浜松市	中区蛸塚四丁目	1964年 11月 11日
10	市指定	有形	工芸品	金銅装厨子	西大山教会	西区大山町	1965年 3月 12日
11	市指定	有形	工芸品	鰐口(大永八年八月の銘がある)	6区大日堂	北区引佐町井伊谷	1972年 11月 28日
12	市指定	有形	工芸品	鰐口(延文二年九月の銘がある)	富幕観音堂	北区引佐町奥山	1972年 11月 28日
13	市指定	有形	工芸品	鰐口(文安四年壬二月の銘がある)	川名薬師堂	北区引佐町川名	1972年 11月 28日
14	市指定	有形	工芸品	鰐口(永正十五年六月の銘がある)	阿寺六所神社	天竜区大谷	1976年 5月 20日
15	市指定	有形	工芸品	鉄製響 銘藤原宗春作	井伊谷宮	北区引佐町井伊谷	1977年 4月 9日
16	市指定	有形	工芸品	禾目天目茶碗	龍潭寺	北区引佐町井伊谷	1977年 4月 9日
17	市指定	有形	工芸品	太刀 無銘伝舞草 伝宗良親王佩刀	井伊谷宮	東京都台東区	1977年 4月 9日
18	市指定	有形	工芸品	脇差 銘近藤用和作	蘭草神社	北区細江町気賀	1981年 1月 1日
19	市指定	有形	工芸品	鰐口(応永十四年六月、応仁三年六月の追銘がある)	浜松市	中区蛸塚四丁目	1982年 9月 17日
20	市指定	有形	工芸品	鍍絵楊貴妃額(平出宇蔵作)	永福寺	天竜区水窪町奥領家	1982年 9月 17日
21	市指定	有形	工芸品	籬双雀鏡	只木神明宮	北区三ヶ日町只木	1984年 11月 19日
22	市指定	有形	工芸品	只木神明宮鏡像及び懸仏	只木神明宮	北区三ヶ日町只木	1984年 11月 19日
23	市指定	有形	工芸品	鰐口(文明三年極月の銘がある)	八剣池神社他	天竜区水窪町地頭方	1988年 3月 9日
24	市指定	有形	工芸品	横山八幡神社懸仏	横山八幡神社	天竜区大谷	1995年 3月 29日
25	市指定	有形	工芸品	金銅装神輿	岐佐神社	西区舞阪町舞阪	2001年 8月 30日
26	市指定	有形	工芸品	瑞花双鳥八稜鏡	浜松市	中区蛸塚四丁目	2001年 12月 19日
27	市指定	有形	工芸品	鰐口(応安二年二月の銘、寛正三年小春、明治拾五年、昭和七年葉月の追銘がある)	峯熊阿弥陀堂	天竜区大谷	2003年 7月 1日
28	市指定	有形	工芸品	鰐口(長禄二年十二月の銘がある)	西神沢六所神社	天竜区大谷	2003年 7月 1日
29	市指定	有形	工芸品	鰐口(延徳二年十一月の銘がある)	小川若宮八幡神社	天竜区大谷	2003年 7月 1日
30	市指定	有形	工芸品	鰐口(永禄十一年二月の銘がある)	大谷宇佐八幡神社	天竜区大谷	2003年 7月 1日
31	市指定	有形	工芸品	鰐口(至徳二年十月の銘がある)	浜松市	中区蛸塚四丁目	2005年 5月 25日
32	市認定	有形	工芸品	随縁寺大日堂扁額	随縁寺	西区村楠町	2017年 3月 22日
33	市認定	有形	工芸品	頭陀寺半鐘	頭陀寺	南区頭陀寺町	2017年 3月 22日
34	市認定	有形	工芸品	大通院舍利容器	大通院	南区新橋町	2018年 3月 22日
35	市認定	有形	工芸品	大通院舍利塔	大通院	南区新橋町	2020年 3月 27日

④ 書 跡

表 19 指定等書跡（所有者が、社寺又は浜松市のみを掲載）

No.	指定等	区分	種別	名称	所有者	所在地	指定等年月日
1	県指定	有形	書跡	紙本墨書大般若経	大智寺	天竜区春野町宮川	1975年 3月 25日
2	市指定	有形	書跡	白隠慧鶴墨跡(百寿字)	方広寺	北区引佐町奥山	1962年 1月 5日
3	市指定	有形	書跡	観音山額(法源禪師筆)	清水寺	北区引佐町井伊谷	1962年 11月 10日
4	市指定	有形	書跡	紙本墨書日課念仏(伝徳川家康筆)	浜松市	中区蛸塚四丁目	1964年 8月 18日
5	市指定	有形	書跡	紙本墨書古今集仮名序拔書(賀茂真淵筆)	浜松市	中区松城町	1971年 11月 12日
6	市指定	有形	書跡	紙本墨書和歌(賀茂真淵筆)	浜松市	中区松城町	1971年 11月 12日
7	市指定	有形	書跡	紙本墨書植田七三郎宛書簡(賀茂真淵筆)	浜松市	中区松城町	1971年 11月 12日
8	市指定	有形	書跡	賀茂真淵書簡集(巻末に梅谷真滋の書簡がある)	浜松市	中区松城町	1971年 11月 12日
9	市指定	有形	書跡	紙本墨書植田喜右衛門同七三郎宛書簡(賀茂真淵筆)	浜松市	中区東伊場一丁目	1971年 11月 12日
10	市指定	有形	書跡	紙本墨書新古今集断簡(伝宗良親王筆)	井伊谷宮	北区引佐町井伊谷	1977年 4月 9日
11	市指定	有形	書跡	無文元選墨跡(七言絶句)	方広寺	北区引佐町奥山	1977年 4月 9日
12	市指定	有形	書跡	紙本墨書詩句(山岡鉄舟筆)	方広寺	北区引佐町奥山	1977年 4月 9日
13	市指定	有形	書跡	紙本墨書捨遣集断簡(伝後醍醐天皇筆)	方広寺	北区引佐町奥山	1977年 4月 9日
14	市指定	有形	書跡	紙本墨書歎哉二字(近藤用和筆)	浜松市	北区細江町気賀	1980年 1月 1日
15	市指定	有形	書跡	紙本墨書和歌懐紙(賀茂真淵筆)	浜松市	中区東伊場一丁目	1991年 7月 10日
16	市指定	有形	書跡	紙本墨書和歌詠草(賀茂真淵筆)	浜松市	中区東伊場一丁目	1991年 7月 10日
17	市指定	有形	書跡	紙本墨書歌文(賀茂真淵筆)	浜松市	中区東伊場一丁目	1991年 7月 10日
18	市指定	有形	書跡	紙本墨書岡部定重宛書簡(賀茂真淵筆)	浜松市	中区東伊場一丁目	1991年 7月 10日
19	市指定	有形	書跡	紙本墨書梅谷真滋宛書簡(賀茂真淵筆)	浜松市	中区東伊場一丁目	1991年 7月 10日
20	市指定	有形	書跡	五部大乘経	洞泉寺	天竜区大谷	1996年 11月 28日
21	市認定	有形	書跡	宝珠寺通応和尚墨跡一円相	宝珠寺	東区上新屋町	2018年 3月 22日
22	市認定	有形	書跡	宝珠寺山岡鉄舟の書跡群	宝珠寺	東区上新屋町	2018年 3月 22日

⑤ 典 籍

表 20 指定等典籍（所有者が、社寺又は浜松市のみを掲載）

No.	指定等	区分	種別	名称	所有者	所在地	指定等年月日
1	国指定	有形	典籍	宋版錦繡萬花谷	龍潭寺	北区引佐町井伊谷	1978年 6月 15日
2	県指定	有形	典籍	正平版論語	県居神社	中区東伊場一丁目	1967年 10月 11日
3	市指定	有形	典籍	出雲日記(内山真龍筆 本居宣長序)	浜松市	中区松城町	1970年 7月 20日
4	市指定	有形	典籍	宋版法華経(巻七)	方広寺	北区引佐町奥山	1977年 4月 9日
5	市指定	有形	典籍	紙本墨書大般若経	龍翔寺	北区引佐町の場	1990年 3月 1日
6	市認定	有形	典籍	馬郡観音堂旧藏大般若経	如意寺	西区馬郡町	2017年 3月 22日
7	市認定	有形	典籍	宝珠寺法華経	宝珠寺	東区上新屋町	2018年 3月 22日
8	市認定	有形	典籍	宝珠寺大般若経	宝珠寺	東区上新屋町	2018年 3月 22日

⑥ 古文書

表 21 指定等古文書（所有者が、社寺又は浜松市のみを掲載）（その1）

No.	指定等	区分	種別	名称	所有者	所在地	指定年月日
1	国指定	有形	古文書	紙本墨書瑠璃山年録残篇	大福寺	北区三ヶ日町福長	1905年 4月 4日
2	市指定	有形	古文書	宗源院文書	宗源院	中区蛸塚一丁目	1971年 11月 12日
3	市指定	有形	古文書	息神社棟札	息神社	西区雄踏町宇布見	1980年 3月 17日
4	市指定	有形	古文書	清庵宗徹贈如然禪師諡号勅書	安寧寺	西区雄踏町山崎	1980年 3月 17日
5	市指定	有形	古文書	蜂前神社文書	蜂前神社	北区細江町気賀	1981年 1月 1日
6	市指定	有形	古文書	寿量院文書	寿量院	中区蛸塚四丁目	1981年 8月 26日
7	市指定	有形	古文書	舞坂宿問屋場御用留	浜松市	中区蛸塚四丁目	1984年 3月 27日
8	市指定	有形	古文書	中村家文書	浜松市	天竜区大谷	1984年 11月 13日
9	市指定	有形	古文書	紙本墨書金子請取覚書(天正十六年の記がある 徳川家康筆)	浜松市	中区蛸塚四丁目	1986年 7月 8日
10	市指定	有形	古文書	妙恩寺文書	妙恩寺	東区天龍川町	1986年 7月 8日
11	市指定	有形	古文書	舞坂宿祭礼入用帳	浜松市	西区舞阪町舞阪	2001年 8月 30日
12	市指定	有形	古文書	田代家文書	浜松市	天竜区大谷	2001年 11月 27日

表 22 指定等古文書（所有者が、社寺又は浜松市のみを掲載）（その 2）

No.	指定等	区分	種別	名称	所有者	所在地	指定等年月日
13	市指定	有形	古文書	木船新田村和泉屋取引帳	浜松市	中区蛸塚四丁目	2005年 3月 24日
14	市指定	有形	古文書	三省録、続三省録	浜松市	中区蛸塚四丁目	2005年 3月 24日
15	市指定	有形	古文書	今川義元寺領安堵状	摩訶耶寺	北区三ヶ日町摩訶耶	2005年 4月 19日
16	市認定	有形	古文書	岩水寺袖ヶ浦干水記	岩水寺	浜北区根堅	2018年 3月 22日
17	市認定	有形	古文書	北嶋八幡宮文書	八柱神社	東区薬師町	2020年 3月 27日
18	市認定	有形	古文書	薬師町八柱神社鳥居老門棟札	八柱神社	東区薬師町	2020年 3月 27日

⑦ 考古資料

表 23 指定考古資料（所有者が、社寺又は浜松市のみを掲載）

No.	指定等	区分	種別	名称	所有者	所在地	指定年月日
1	県指定	有形	考古資料	引佐町上野馬場平古墳出土品を含む考古資料一括	浜松市	中区蛸塚四丁目	1967年 10月 11日
2	県指定	有形	考古資料	銅鐸(猪久保出土)	浜松市	北区三ヶ日町三ヶ日	1967年 10月 11日
3	県指定	有形	考古資料	赤門上古墳出土遺物	浜松市	浜北区貴布祢	1990年 3月 20日
4	県指定	有形	考古資料	銅鐸(滝峯才四郎谷出土)	浜松市	北区細江町気賀	1993年 3月 26日
5	県指定	有形	考古資料	銅鐸(前原遺跡出土)	浜松市	北区細江町気賀	2000年 11月 17日
6	県指定	有形	考古資料	伊場遺跡群出土古代地方官衙関係資料	浜松市	中区蛸塚四丁目	2002年 3月 22日
7	県指定	有形	考古資料	鳥居松遺跡出土金銀装円頭大刀	浜松市	中区蛸塚四丁目	2020年 3月 27日
8	市指定	有形	考古資料	摩訶耶寺出土品(灰釉袈裟襷紋広口壺 灰釉蓮弁紋広口壺)	浜松市	北区細江町気賀	1984年 11月 19日
9	市指定	有形	考古資料	灰釉広口壺(三ヶ日町只木出土)	浜松市	北区細江町気賀	1984年 11月 19日
10	市指定	有形	考古資料	弁天島遺跡出土品(井戸杵)	浜松市	西区舞阪町舞阪	1985年 12月 2日
11	市指定	有形	考古資料	白石山遺跡出土品(壺形土器 鉢形土器)	浜松市	西区舞阪町舞阪	1985年 12月 2日
12	市指定	有形	考古資料	袈裟襷文銅鐸(中川滝峯穴の谷出土)	浜松市	北区細江町気賀	1993年 3月 26日
13	市指定	有形	考古資料	中の遺跡出土品(埋納銭 陶器残片)	浜松市	中区蛸塚四丁目	2005年 4月 19日
14	市指定	有形	考古資料	家型土器(鳥居松遺跡出土)	浜松市	中区蛸塚四丁目	2005年 10月 19日
15	市指定	有形	考古資料	袈裟襷文銅鐸(中川滝峯七曲り出土)	浜松市	北区細江町気賀	2020年 3月 24日
16	市指定	有形	考古資料	袈裟襷文銅鐸(中川不動平出土)	浜松市	北区細江町気賀	2020年 3月 24日

⑧ 歴史資料

表 24 指定等歴史資料（所有者が、社寺又は浜松市のみを掲載）

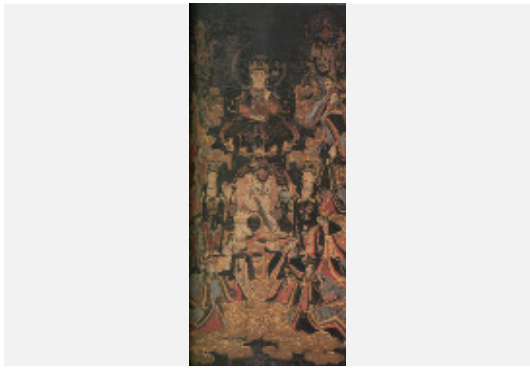
No.	指定等	区分	種別	名称	所有者	所在地	指定等年月日
1	市指定	有形	歴史資料	七科約説	浜松市	中区松城町	1970年 7月 20日
2	市指定	有形	歴史資料	遠州報国隊関係資料(大刀他)	浜松市	北区細江町気賀	1981年 1月 1日
3	市指定	有形	歴史資料	片山家関係資料	浜松市	天竜区春野町宮川	1983年 3月 8日
4	市認定	有形	歴史資料	頭陀寺薬師道の道標	頭陀寺	南区頭陀寺町	2017年 3月 22日
5	市認定	有形	歴史資料	気多森林鉄道関係資料	浜松市	天竜区春野町宮川	2017年 3月 22日
6	市認定	有形	歴史資料	蒲二葉会日曜学校旗	宝珠寺	東区上新屋町	2018年 3月 22日
7	市認定	有形	歴史資料	天龍橋料金入箱	浜松市	天竜区二俣町二俣	2018年 3月 22日
8	市認定	有形	歴史資料	小沢義助像台座	浜松市	天竜区二俣町二俣	2018年 3月 22日
9	市認定	有形	歴史資料	下阿多古の消防手曳ガソリンポンプ	浜松市	天竜区二俣町	2018年 3月 22日
10	市認定	有形	歴史資料	五社・諏訪神社の手水鉢	五社神社・諏訪神社	中区利町	2019年 3月 15日
11	市認定	有形	歴史資料	五社神社の光海霊神碑	五社神社・諏訪神社	中区利町	2019年 3月 15日
12	市認定	有形	歴史資料	旧元城尋常小学校校長像台座	浜松市	中区元城町	2019年 3月 15日
13	市認定	有形	歴史資料	金原明善翁顕彰碑	八柱神社	東区薬師町	2019年 3月 15日
14	市認定	有形	歴史資料	堤町馬頭観音堂の手水鉢	好徳寺	南区堤町	2019年 3月 15日
15	市認定	有形	歴史資料	曳馬坂拡張記念碑	浜松市	中区高町	2020年 3月 27日
16	市認定	有形	歴史資料	蒲神明宮の大灯籠	蒲神明宮	東区神立町	2020年 3月 27日
17	市認定	有形	歴史資料	小山みい・頌徳灯籠	蒲神明宮	東区神立町	2020年 3月 27日
18	市認定	有形	歴史資料	蒲大神の碑	蒲神明宮	東区植松町	2020年 3月 27日
19	市認定	有形	歴史資料	九勇士の碑	報恩寺	浜北区宮口	2020年 3月 27日



図 14 指定有形文化財美術工芸品 (市指定文化財は表 14~24 の番号に符合)

けんぼんちやくしよくふげんじゅうらせつじょぞう

絹本着色普賢十羅刹女像（北区三ヶ日町福長：国指定重要文化財 絵画）



普賢十羅刹女像は平安時代後期に創出された図様と推測される。本作は南北朝時代の作。象に乗る普賢菩薩を中心に随侍の薬王・勇施の二菩薩、十羅刹女、持国・毘沙門の二天が描かれる。法華経の勧発品に普賢菩薩は法華経持経者を守ることが、陀羅尼品に十羅刹女は信仰者を守ることが説かれる。羅刹は平安時代の官女の姿に表されている。

<大福寺所蔵>

写真：『ふるさと静岡県文化財写真集』5より転載

ちゅうぎょじょうこう

蟲魚帖稿（中区松城町：県指定有形文化財 絵画）

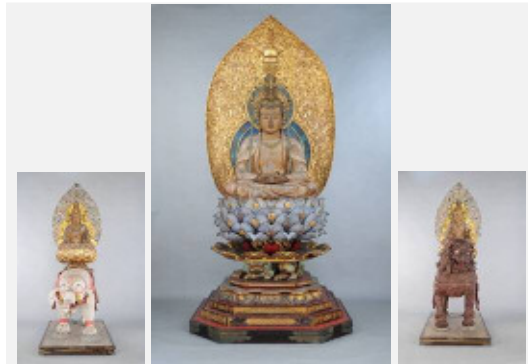


近世絵画史を代表する画家、渡辺崋山最晩年の代表作「蟲魚帖」の唯一の稿本（下図）。紙本墨画一部淡彩で寸法は各帖共縦32cm×横14cm。13葉と目録1葉、計14葉よりなる。実際の写生により草木、虫、茄子、亀などが優れた筆致で描かれている。制作年代は、正本「蟲魚帖」記載の年紀や書簡の考証から天保12年（1841年）8月とされる。崋山は三河田原藩士。南画の谷文晁に師事し、西洋画と伝統画法を融合した風景・肖像画を得意とした。

<浜松市美術館所蔵>

もくぞうしゃかによらいおよびりょうきょうじざぞう

木造釈迦如来及両脇侍坐像（北区引佐町奥山：国指定重要文化財 彫刻）

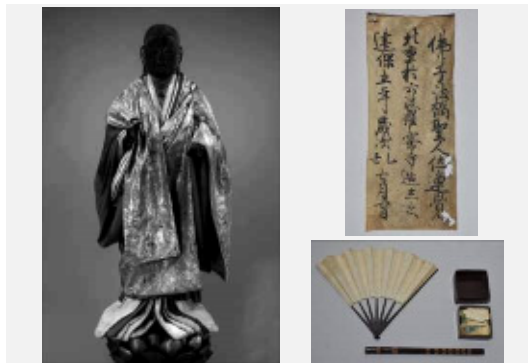


臨済宗方広寺派大本山 方広寺の本尊。頭上に宝冠を戴き禅定印を結ぶいわゆる宝冠釈迦像を中尊とする三尊像。左脇侍は文殊菩薩、右脇侍は普賢菩薩。中尊の像底にある刻銘から造像は南北朝時代の観応3年（1352年）で制作は院吉、院廣、院遵ら後に院派と称される仏師の手による。左脇侍像底には院廣、右脇侍像底には院遵の刻印がある。14世紀院派仏師の造仏の基準作といえることができる。

<方広寺所蔵>

もくぞうじざうぼさつりゅうぞう

木造地藏菩薩立像（浜北区根堅：国指定重要文化財 彫刻）



真言宗 岩水寺の本尊で秘仏。檜材、寄木造、玉眼。等身大（像高165.3cm）の裸形に実物の衣をまとわせる裸形着装像。像内納入品より、建保5年（1217年）に京都の六波羅蜜寺において運覚により造られたことが判明していることから彫刻史上において非常に重要な資料となっている。納入品は、経巻、願文、造像記、漆塗箱、五輪塔、横笛など18種34点におよび、附指定されている。

<岩水寺所蔵>

もくぞうせんじゆかんのんりゆうぞう

木造千手観音立像（北区三ヶ日町摩訶耶：国指定重要文化財 彫刻）

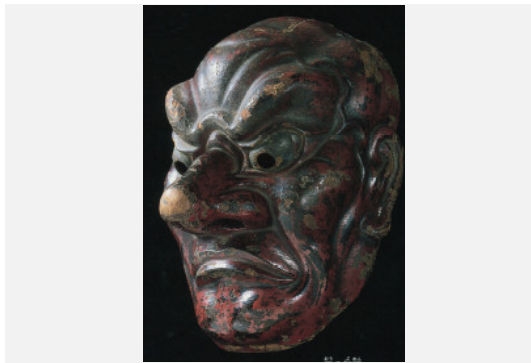


真言宗 摩訶耶寺に伝わる。桧材の一木造で内削りは無く、彩色が施されている。浜名湖を望む富幕山に前身となる新達寺が開創された。古代末の浜名湖北の仏教文化のありようを示す仏像。制作年を示す墨書等はないが、平安時代作と思われる。

<摩訶耶寺所蔵>

おう ぶめん

王の舞面（南区参野町：県指定有形文化財 彫刻）



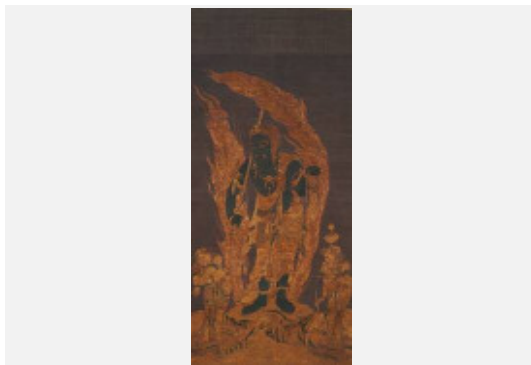
津毛利神社に伝わる。神事に際して浄めと悪魔払いの役割をつとめる王舞の面。王の鼻、鼻高ともいう。力強い彫りであることから鎌倉時代の作と推定される。縦 27.2 cm、横 19.5 cm、厚 14.2 cm、木製、布張、錆下地朱漆塗り（裏面黒漆塗）。

<津毛利神社所蔵>

写真：『ふるさと静岡県文化財写真集』3より転載

ししゅうふどうみょうおうにどうじぞうかけふく

刺繍不動明王二童子像掛幅（中区松城町：国指定重要文化財 工芸品）



鎌倉時代のもので、不動明王の繡仏としては全国に2点しか現存しないうちの1点。平絹地に太めの糸を用いた刺繍により図像を施している。波間の岩場に立つ不動明王と、矜羯羅（こんがら）、制吒迦（せいたか）の二童子を脇侍とする三尊形式。二童子は、平安時代中期の絵仏師玄朝の描いた図像として流布した姿を忠実に表している。伝来は不明だが、収納箱身底の修理銘から高野山寶性院伝来の品である可能性がある。

<浜松市美術館所蔵>

むらさきちじだんはなびしえんもんちらしくさばなもようぬいほくこそで

紫地段花菱田文散草花模様縫箔小袖（中区元浜町：国指定重要文化財 工芸品）



辻が花風絞染めや草花文の刺繍、摺箔などの技法を駆使した安土桃山時代の小袖。慶長小袖に先行する様式を示す。京の西、桂の里（現西京区桂一帯）に住み、石清水八幡宮などの巫女として宮廷などに出仕したとされる桂姫（桂女、かつらめ）着用の伝承がある。鬘巻一条が附指定となっている。

<平野美術館所蔵>

たち 銘安縄<備前> (天竜区春野町領家：国指定重要文化財 工芸品)



形状は庵棟（いおりむね）、鑄造り（しのぎづくり）、腰反りで、目釘孔 1 個を有する。地金は澄み、刃文は高低の変化に富み、丁子乱れを主に豊かな景色をみせる。作風は平安時代末期から鎌倉時代初期の様式。茎尻（なかごじり）に「安縄」と銘がある。安縄は古備前派の刀工で現存作は極めて少ないため貴重例となっている。長さ 70.7 cm（2 尺 3 寸 3 分）、反り 2.2 cm（7 分）。

<秋葉神社所蔵>

こんどうそうおい
金銅装笈 (北区三ヶ日町福長：国指定重要文化財 工芸品)

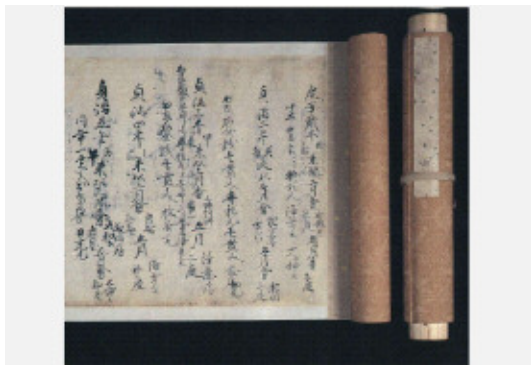


室町時代に製作された高さ 77 cm、幅 62.4 cm、奥行 43.3 cm の笈である。笈は、修行僧などが仏具や衣服などを入れて背負う足がついた箱である。桐材を鍍金の銅板で覆い、丸鋳でとめており、如来の来迎、蓮池、昇り龍、下り龍などが打ち出されている。寺伝では、源頼光の武将、卜部季武が大江山酒呑童子征伐の際に携えたもので、季武がその後眼病にかかり大福寺本尊の薬師如来に祈願して治癒したことから大福寺に寄進したとされる。

<大福寺所蔵>

写真：『ふるさと静岡県文化財写真集』3 より転載

しほんぼくしよるりきんねんろくざんべん
紙本墨書瑠璃山年録残篇 (北区三ヶ日町福長：国指定重要文化財 古文書)



室町時代頃、延慶 3 年（1310 年）から永享 7 年（1435 年）までの瑠璃山大福寺の記録である。地震の記載や千早城の陥落、金剛山城攻めなどの戦いの記載、井伊、大平、鴨江、千頭峯、三嶽など城の記載がある。また、足利尊氏・義詮父子や北畠顕家の名も記載されている。南朝方と北朝方の攻防を記した南北朝期の貴重な記録である。

<大福寺所蔵>

写真：『ふるさと静岡県文化財写真集』5 より転載

うちやままたつじひつこうほんとおとうみのくにふどきでんおよびじひつにつき
内山真龍自筆稿本遠江国風土記伝及び自筆日記 (天竜区大谷：県指定有形文化財 古文書)



風土記伝 1 巻から 7 巻及び 9 巻の 8 冊、及び、日記 19 冊から成る。内山真龍（1740-1821 年）は江戸後期の国学者で遠江国学の基礎を築いた人物。風土記伝は、遠江国内の各郡郷村の歴史、地理、産業、伝説等を探訪記録したもの。遠江地方を研究する上での基本資料となっている。日記には、遠江国風土記伝執筆の進捗状況と併せて、近世東海道の宿場文化の伝播や定着の諸相などが記載されている。

<個人蔵・内山真龍資料館保管>

そうばん きんしゅうばんかこく
宋版 錦繡萬花谷（北区引佐町井伊谷：国指定重要文化財 典籍）



錦繡萬花谷は、南宋淳熙 15 年（1188 年）頃に中国で編纂された全 150 巻の類書。南宋時代寧宗（在位 1194 年-1224 年）頃に刊行され、日本へは鎌倉時代に輸入された。錦繡萬花谷の宋版の中でも南宋中期に遡る現存最古本であることに加え、金沢文庫伝来本であることなどが貴重である。龍潭寺には、序文と目録上の 1 冊、卷第三十三/三十四の 1 冊、卷第三十九/四十の 1 冊の計 3 冊が伝わる。序文の最初の頁に北条実時の金沢文庫の蔵書であったことを示す印がある。

<龍潭寺所蔵>

しょうへいばんろんご
正平版論語（中区東伊場一丁目：県指定有形文化財 典籍）



室町時代の正平 19 年／貞治 3 年（1364 年）に泉州堺で刊行された論語の単跋本（初刻本を覆刻したもの）。儒学者の日本における最初の出版で、日本の古刻史上代表的なものとなっている。10 巻 5 冊、寸法は縦 27.5 cm、横 22 cm。本書は、岡部譲が賀茂真淵の学徳を偲び、昭和 4 年（1929 年）に県居神社内の県居文庫に寄贈した 12,000 冊の中に含まれていたもの。

<県居神社所蔵>

写真：『ふるさと静岡県文化財写真集』5 より転載

どうたく まえはら
銅鐸<前原遺跡出土>（北区細江町気賀：県指定有形文化財 考古資料）



北区都田町の都田川沿いの台地端から出土した弥生時代後期の銅鐸である。銅鐸は発掘調査で発見され、鱗を上に向けて埋納されており、埋納状態を確認できた数少ない事例となっている。高さ 68.5 cm で、弥生時代後期に三河から遠江にかけて分布が認められる三遠式銅鐸形式。都田川流域においては、北区細江町を中心に銅鐸が集中して出土しており、本市域は全国的にみて銅鐸の分布の東限にあたる地域でもある。

<浜松市博物館所蔵・姫街道と銅鐸の歴史民俗資料館保管>

いばいせきぐんしゅつどこだいちほうかんがかんけいしりょう
伊場遺跡群出土古代地方官衙関係資料（中区蜷塚四丁目：県指定有形文化財 考古資料）



伊場遺跡群は中区南伊場町から南区若林町の平野上に広がる奈良・平安時代の官衙遺跡である。伊場大溝と呼ばれる古代の流路跡を中心に多数の木簡や墨書土器が出土した。168 点の木簡と、約 905 点の墨書土器が文化財指定されており、その内容から古代の遠江国敷智郡の郡家が存在したと考えられる。伊場遺跡群から出土した多数の古代文字資料は、古代の地方官衙の実態を知るうえで重要な資料群である。

<浜松市博物館所蔵>

(3) 有形民俗文化財

表 25 指定等有形民俗文化財

No.	指定等	区分	種別	名称	所有者	所在地	指定等年月日
1	県指定	民俗	有形	藤布織機一式及び製品一括	浜松市	天竜区水窪町地頭方	1968年 3月 19日
2	県指定	民俗	有形	染め型紙一括	個人	天竜区水窪町奥領家	1968年 3月 19日
3	県指定	民俗	有形	旧山瀬家のコヤ	浜松市	北区細江町気賀	1984年 11月 30日
4	県指定	民俗	有形	舞阪の海苔生産用具	浜松市	西区舞阪町舞阪	1999年 3月 15日
5	県指定	民俗	有形	佐久間の林業と山村生活の用具	浜松市	天竜区佐久間町佐久間	2012年 11月 30日
6	市指定	民俗	有形	初生衣神社織殿 附 神庫 古式織具	初生衣神社	北区三ヶ日町岡本	1969年 2月 14日
7	市指定	民俗	有形	小国神社の瓶子	小国神社	天竜区春野町宮川	1973年 2月 27日
8	市指定	民俗	有形	日入沢の道祖神	下平山日入沢小保	天竜区龍山町下平山	1975年 10月 1日
9	市指定	民俗	有形	秋葉街道貴布祢の道標	浜松市	浜北区貴布祢	1982年 5月 22日
10	市指定	民俗	有形	田楽面	個人	天竜区水窪町奥領家	1982年 9月 17日
11	市指定	民俗	有形	木地屋の墓	浜松市	天竜区水窪町奥領家	1986年 2月 14日
12	市指定	民俗	有形	上村の庚申像	上村自治会	天竜区水窪町地頭方	1986年 2月 14日
13	市指定	民俗	有形	田楽面及び祭具	横山八幡神社	天竜区大谷	1995年 3月 29日
14	市指定	民俗	有形	東林寺の庚申塔	東林寺	北区細江町気賀	1998年 4月 14日
15	市指定	民俗	有形	服部正伸並びに女清能楽関係資料	岡本自治会	北区三ヶ日町三ヶ日	2005年 4月 19日
16	市認定	民俗	有形	天王町東地蔵菩薩堂	天王町東自治会	東区天王町	2017年 3月 22日
17	市認定	民俗	有形	天王町東秋葉山常夜燈鞘堂	天王町東自治会	東区天王町	2017年 3月 22日
18	市認定	民俗	有形	天王町東引舞台家形	天王町東自治会	東区天王町	2017年 3月 22日
19	市認定	民俗	有形	白鳥の富士石	六所神社	東区白鳥町	2017年 3月 22日
20	市認定	民俗	有形	頭陀寺役行者像	頭陀寺	南区頭陀寺町	2017年 3月 22日
21	市認定	民俗	有形	滝清水役行者像	伊平自治会	北区引佐町伊平	2017年 3月 22日
22	市認定	民俗	有形	宮口の三階屋台	研友会	浜北区宮口	2017年 3月 22日
23	市認定	民俗	有形	石神市場の竜燈様	個人	天竜区石神	2017年 3月 22日
24	市認定	民俗	有形	二俣町二俣の秋葉山道標	個人	天竜区二俣町二俣	2017年 3月 22日
25	市認定	民俗	有形	玖延寺弘法大師像	玖延寺	天竜区二俣町阿蔵	2017年 3月 22日
26	市認定	民俗	有形	長養寺馬頭観音像	長養寺	天竜区船明	2017年 3月 22日
27	市認定	民俗	有形	長養寺道祖神	長養寺	天竜区船明	2017年 3月 22日
28	市認定	民俗	有形	早出薬師講信仰資料	早出薬師講	中区早出町	2018年 3月 22日
29	市認定	民俗	有形	蓮華寺松尾芭蕉句碑	蓮華寺	中区紺屋町	2018年 3月 22日
30	市認定	民俗	有形	心造寺賀茂真淵句碑	心造寺	中区紺屋町	2018年 3月 22日
31	市認定	民俗	有形	宝珠寺関連文化財 9件	宝珠寺	東区上新屋町	2018年 3月 22日
40	市認定	民俗	有形	雄踏町の館車 6件	領家自治会 他	西区雄踏町	2018年 3月 22日
41	市認定	民俗	有形	大通院禁葷酒標石	大通院	南区新橋町	2018年 3月 22日
42	市認定	民俗	有形	堤町馬頭観音像	好徳寺	南区堤町	2018年 3月 22日
43	市認定	民俗	有形	倉松町のいぼ地藏信仰資料	個人	南区倉松町	2018年 3月 22日
44	市認定	民俗	有形	二俣新町南嶺連屋台	二俣町新町自治会	天竜区二俣町二俣	2018年 3月 22日
45	市認定	民俗	有形	笠井町春日神社の神輿	春日神社	東区笠井町	2019年 3月 15日
46	市認定	民俗	有形	息神社の金の中額	息神社	西区雄踏町	2019年 3月 15日
49	市認定	民俗	有形	山崎の秋葉山常夜灯鞘堂	山崎自治会	西区雄踏町山崎	2019年 3月 15日
50	市認定	民俗	有形	寺島の道祖神	寺島自治会	浜北区寺島	2019年 3月 15日
51	市認定	民俗	有形	寺島山王の秋葉山常夜灯	寺島自治会	浜北区寺島	2019年 3月 15日
52	市認定	民俗	有形	根堅祭りの神輿	岩水寺	浜北区根堅	2019年 3月 15日
53	市認定	民俗	有形	神沢の庚申塔	神沢西自治会	天竜区神沢	2019年 3月 15日
54	市認定	民俗	有形	大日山守護神堂	神沢東自治会	天竜区神沢	2019年 3月 15日
55	市認定	民俗	有形	田河内の秋葉山常夜灯鞘堂	田河内自治会	天竜区春野町田河内	2019年 3月 15日
56	市認定	民俗	有形	龍勢社屋台幕	犬居自治会	天竜区春野町堀之内	2019年 3月 15日
57	市認定	民俗	有形	山王岩峰の仏像	個人	天竜区水窪町奥領家	2019年 3月 15日
58	市認定	民俗	有形	住吉の親子地藏像	個人	中区住吉二丁目	2020年 3月 27日
59	市認定	民俗	有形	天王町中の屋台	天王町中自治会	東区天王町	2020年 3月 27日
63	市認定	民俗	有形	兎荷鷲ノ巢山の行者様	兎荷区	北区引佐町兎荷	2020年 3月 27日
64	市認定	民俗	有形	袖ヶ浦三十三観音霊場の観音像	(各地)	浜北区／東区	2020年 3月 27日
65	市認定	民俗	有形	新原の阿弥陀三尊塚	善願地区	浜北区新原	2020年 3月 27日
66	市認定	民俗	有形	中瀬四塔の秋葉山常夜灯鞘堂の欄間	中瀬稲荷神社	浜北区中瀬	2020年 3月 27日
67	市認定	民俗	有形	宮口洗沢の秋葉山常夜灯鞘堂	個人	浜北区宮口	2020年 3月 27日
68	市認定	民俗	有形	宮口土取の賓頭盧尊者像	個人	浜北区宮口	2020年 3月 27日
69	市認定	民俗	有形	宮口三十三観音霊場の観音像	(各地)	浜北区宮口	2020年 3月 27日
70	市認定	民俗	有形	二俣古城連の屋台	中町自治会	天竜区二俣町二俣	2020年 3月 27日
71	市認定	民俗	有形	六十六部供養塔及び教傳様神号石	向市場自治会	天竜区水窪町地頭方	2020年 3月 27日

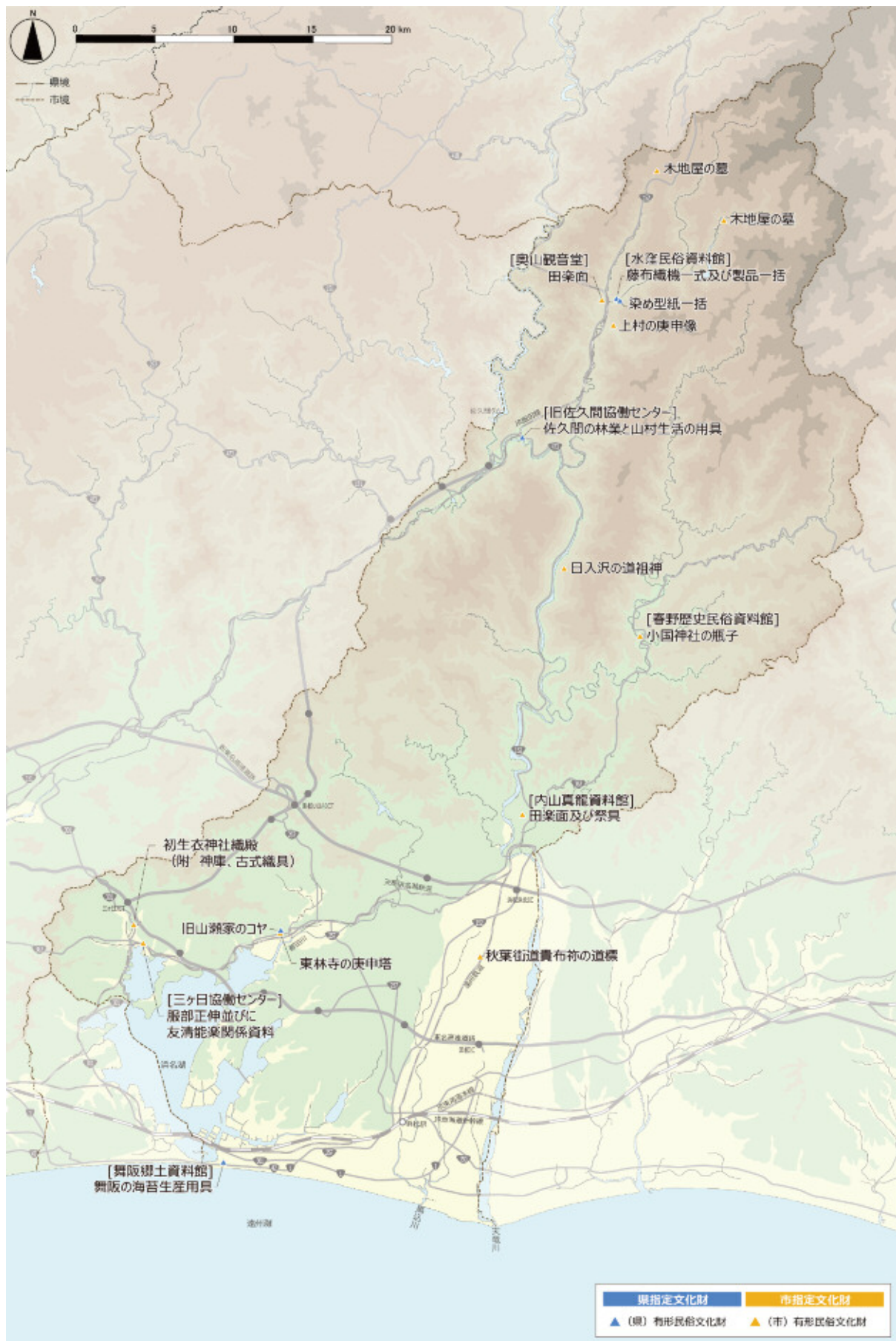


図 20 指定有形民俗文化財

さくま りんぎょう さんそんせいかつ ようぐ
佐久間の林業と山村生活の用具（天竜区佐久間町佐久間：県指定有形民俗文化財）



天竜川中流域の険しい渓谷にある佐久間周辺では林業がさかんで、川を利用した筏流しの道具も含めて独特な仕様が発展し、また信仰が受け継がれてきた。旧佐久間町の郷土遺産保存館が収集した414点が県の有形民俗文化財に指定されている。本市では水窪町や龍山町、また春野町でも山村生活の道具が保存されている。

天竜川下流域には、船明・二俣・鹿島・中ノ町・半場（現材木町）・掛塚（磐田市）など、中流域と結んだ製材・流通の拠点となった場所が名残を残している。

こぎのばたごいっしきおよ せいひんいっかつ
藤布織機一式及び製品一括（天竜区水窪町地頭方：県指定有形民俗文化財）



水窪町竜戸で使用されていた織機は、「ハンハタゴ」といい、山峡の狭い住宅での作業がしやすいように一般的な織機（ホンハタゴ）の半分程度の大きさに製作されている。木綿栽培には不向きだった山村で生業となった藤布製品とともに、山のくらしを示す資料である。

また、水窪町小畑で染物業を営み「コウヤ」という屋号で呼ばれた守屋家では、江戸時代に伊勢白子から調達した染型紙約500枚を保存しており、こちらも静岡県内の有形民俗文化財に指定されている。

きゅうやませけのこ
旧山瀬家のコヤ（北区細江町気賀：県指定有形民俗文化財）



旧石岡村（北区細江町三和）で使用されていた産屋。江戸時代の終わりに建てられ、明治の初めまで使用されていたという。間口3.6m、奥行3mの小規模なもので、土間造り、屋根は茅葺きである。かつて、女性の出産は「血の穢れ」を伴うと考えられており、産婦は家族の暮らす母屋から離れ、邸内の別の場所にコヤ（子屋）を建てて、家族とは籠も別にして生活した。仮の住まいであるコヤが現存する例は稀で、昭和60年（1985年）に、姫街道と銅鐸の資料館敷地に移設して、保存している。

まいさかのりせいさんようぐ
舞阪の海苔生産用具（西区舞阪町舞阪：県指定有形民俗文化財）



文政3年（1820年）、森田屋彦之丞と大森三次郎が舞坂宿に江戸前の海苔養殖技術を伝えた。当時の海苔養殖は江戸湾と広島に限られ、舞坂海苔は新興の一大産地となっていた。昭和40年代以降は、海苔生産も機械化が進んだが、それ以前の手作業の道具、275点が舞坂町によって収集され、静岡県の指定文化財となっている。内訳は、養殖用具38点、採取用具26点、加工用具153点、海苔船2点、海苔簀製作用具29点、衣類1点、その他26点となっている。海苔の天日干しはシラスと並んで舞坂宿の風物詩だった。

うぶぎぬじんじやおりどの つけたり しんこ こしきおりぐ
初生衣神社織殿 附 神庫 古式織具 (北区三ヶ日町岡本：市指定有形民俗文化財)



浜名湖北岸は、伊勢神宮領であり、御厨や神戸が経営された。とくに三ヶ日町内は浜名惣社神明宮をはじめ、神明宮が各所に鎮座している。初生衣神社では、久寿2年(1154年)から明治18年(1885年)まで毎年、織殿内で専用の織具と奥三河赤引の絹糸を使い、神御衣を織って伊勢内宮に奉納していたという。織殿は当初毎年建設する習わしであった。現存するものは享和元年(1801年)の建設である。桁行1間4尺、梁行1間2尺である。

でんがくめんおよ さいぐ
田楽面及び祭具 (天竜区大谷：市指定有形民俗文化財)



天竜区横山八幡神社には翁・猿などの田楽面11面と鈴が2点残されている。社伝によると明治7年(1874年)ころまで正月元旦から10日まで田遊びが演じられていたといい、その後正月7日限りとなって廃絶したという。近在では懐山おくない(国の重要無形民俗文化財)が継承され、神沢にもおくないがある。水窪の西浦田楽(国の重要無形民俗文化財)にも豊富な面が使用されるが、近在の小畑観音堂にも面が残されている。

<内山真龍資料館所蔵>

みやぐち さんかいやたい
宮口の三階屋台 (浜北区宮口：市認定有形民俗文化財)



文政4年(1821年)ころ、名古屋の花車神明祭に参加する二福神車(山車)として建造され、同祭でからくり人形を演じた。新たな山車の建造によって、掛塚(磐田市)に転売され、さらに二俣祭りに転売、その後明治23年(1890年)ころ宮口に引き取られて、地元の「研精社」が宮口六所神社の祭礼で曳き回した。名古屋市内にも製造年代の古い山車は現存していない。なお、当代の二福神車は名古屋指定文化財。市内の祭礼では豊富な屋台、館車等が曳き回されており、遠方からの来歴を記すものも多い。

しろとり ふじいし
白鳥の富士石 (東区白鳥町：市認定有形民俗文化財)



昔、一人の行者が白鳥の六所神社で一夜を過ごし、はいていた草履の上に小石を載せて奉納していった。この石が日ごとに大きくなり、数年後には富士山の形になったという。富士の浅間様を宿した石として噂が広まり、旅また足の神様として信仰されたと伝わる。市の文化財認定を契機に、地元での再認識が進んだ事例である。

市内には、舞阪町の岐佐神社に、大国主命にかかわる赤石が伝えられているなど、各所に信仰の対象となった石や石像などが大切にされている。

(4) 無形民俗文化財

表 26 指定等無形民俗文化財

No.	指定等	区分	種別	名称	所有者	所在地	指定等年月日
1	国指定	民俗	無形	西浦の田楽	西浦田楽保存会	天竜区水窪町奥領家	1976年 5月 4日
2	国指定	民俗	無形	遠江のひよんどりとおくない	(各保存会)	北区引佐町ほか	1994年 12月 13日
3	県指定	民俗	無形	呉松の大念仏	同保存会	西区呉松町	1957年 12月 15日
4	県指定	民俗	無形	滝沢の放歌踊り	同保存会	北区滝沢町	1957年 12月 15日
5	県指定	民俗	無形	横尾歌舞伎	同保存会	北区引佐町横尾, 白岩	1974年 4月 19日
6	県指定	民俗	無形	川合花の舞	同保存会	天竜区佐久間町川合	1976年 1月 1日
7	県指定	民俗	無形	西浦の念仏踊り	同保存会	天竜区水窪町奥領家	1997年 11月 27日
8	市指定	民俗	無形	勝坂神楽	同保存会	天竜区春野町豊岡	1966年 12月 26日
9	市指定	民俗	無形	犬居つなん曳	犬居自治会(龍勢社)	天竜区春野町堀之内	1966年 12月 26日
10	市指定	民俗	無形	遠州大念仏	同保存会	中区鹿谷町	1972年 3月 1日
11	市指定	民俗	無形	妙功庵観音堂の百万遍念仏と念仏講	同保存会	北区細江町中川	1998年 7月 8日
12	市認定	民俗	無形	有玉神社の流鏝馬神事	—	東区有玉南町	2017年 3月 22日
13	市認定	民俗	無形	松之浦神社の注連縄	—	東区松小池町	2017年 3月 22日
14	市認定	民俗	無形	中野町の煙火	—	東区中野町	2017年 3月 22日
15	市認定	民俗	無形	賀久留神社の神幸祭	—	西区神ヶ谷町	2017年 3月 22日
16	市認定	民俗	無形	息神社の田遊祭	—	西区雄踏町	2017年 3月 22日
17	市認定	民俗	無形	舞阪の太太鼓祭り	—	西区舞阪町	2017年 3月 22日
18	市認定	民俗	無形	雄踏歌舞伎万人講	—	西区雄踏町	2017年 3月 22日
19	市認定	民俗	無形	金指市神様の祭祀	—	北区引佐町金指	2017年 3月 22日
20	市認定	民俗	無形	東久留女木の万歳楽	—	北区引佐町	2017年 3月 22日
21	市認定	民俗	無形	細江神社の祇園まつり	—	北区細江町気賀	2017年 3月 22日
22	市認定	民俗	無形	浦川歌舞伎	—	天竜区佐久間町浦川	2017年 3月 22日
23	市認定	民俗	無形	佐久間童神の舞	—	天竜区佐久間町中部	2017年 3月 22日
24	市認定	民俗	無形	八幡神楽	—	天竜区水窪町奥領家	2017年 3月 22日
25	市認定	民俗	無形	浜秋葉神社の管粥祭	—	中区三組町	2018年 3月 22日
26	市認定	民俗	無形	雄踏町山崎の百万遍念仏	—	西区雄踏町	2018年 3月 22日
27	市認定	民俗	無形	金折津島神社祇園祭(ヨイトー)	—	南区金折町	2018年 3月 22日
28	市認定	民俗	無形	水窪まつり	—	天竜区水窪町奥領家	2018年 3月 22日
29	市認定	民俗	無形	芋掘神楽	—	天竜区佐久間町奥領家	2018年 3月 22日
30	市認定	民俗	無形	松島神楽	—	天竜区佐久間町相月	2018年 3月 22日
31	市認定	民俗	無形	鹿島の花火	—	天竜区二俣町	2018年 3月 22日
32	市認定	民俗	無形	二俣まつり	—	天竜区二俣町	2018年 3月 22日
33	市認定	民俗	無形	水窪の削り花	—	天竜区水窪町奥領家	2018年 3月 22日
34	市認定	民俗	無形	笠井町春日神社の神輿渡御	—	東区笠井町	2019年 3月 15日
35	市認定	民俗	無形	馬門の神楽	—	北区引佐町奥山	2019年 3月 15日
36	市認定	民俗	無形	奥山の手筒花火	—	北区引佐町奥山	2019年 3月 15日
37	市認定	民俗	無形	「小組」の屋台行事とお囃子	—	北区引佐町小斎藤	2019年 3月 15日
38	市認定	民俗	無形	金刀比羅神社巫女神楽	—	浜北区尾野	2019年 3月 15日
39	市認定	民俗	無形	水窪の祇園祭り	—	天竜区水窪町	2019年 3月 15日
40	市認定	民俗	無形	蒲神明宮の御田打ち	—	東区神立町	2020年 3月 27日
41	市認定	民俗	無形	蒲神明宮の庭上座礼	—	東区神立町	2020年 3月 27日
42	市認定	民俗	無形	蒲神明宮の神楽	—	東区神立町	2020年 3月 27日
43	市認定	民俗	無形	初生衣神社おんぞ祭り	—	北区三ヶ日町岡本	2020年 3月 27日
44	市認定	民俗	無形	横山八幡神社の祭礼	—	天竜区横山町	2020年 3月 27日
45	市認定	民俗	無形	瀬尻のぶか凧	—	天竜区龍山町瀬尻	2020年 3月 27日



図 21 指定無形民俗文化財

にしうれ でんがく
西浦の田楽 (天竜区水窪町奥領家：国指定重要無形民俗文化財)



西浦所能観音堂境内で、毎年旧暦1月18日の月の出から翌19日の日の出まで、夜を徹して舞われる田楽で、五穀豊穡、無病息災、子孫長久、水火の難を除く神事。養老3年(719)、行基が当地を訪れて仏像と面を作り、その年から祭が始まったと伝わる。地能33番、はね能11番(閏年に限って舞われる閏舞を入れると12番)、番外として獅子舞、しずめ、火の王、水の王で構成され、世襲により伝えられている。松明の準備や消防警護など地域の人々と行事を行っている。

てらの
寺野のひよんどり (北区引佐町川名：国指定重要無形民俗文化財)



北区引佐町渋川の宝蔵寺観音堂(通称三日堂)において、毎年1月3日に行われる五穀豊穡を祈る春祈祷の祭りで、元亀年間(1570-1573)頃に始められたと考えられている。「ひよんどり」の名称は、観音堂の外陣において一同が松明を持って輪になって踊る火踊りが印象的なことから、それがなまって「ひよんどり」となったと考えられている。

かわな
川名のひよんどり (北区引佐町川名：国指定重要無形民俗文化財)



北区引佐町川名の福満寺薬師堂(通称八日堂)において、毎年1月4日に行われる五穀豊穡・子孫繁栄を祈る春祈祷の祭りで、応永33年(1426)には行われていたと考えられている。「ひよんどり」名称の由来は、寺野と異なり、堂内での行事の始めに祭りに携わる者一行が松明を灯して薬師堂へ献上するために上がり込んでくるところを、裸の若連(ヒドリ役)が入口で通せんぼして揉み合いとなる場面が印象的であることから名付けられたといわれている。

ふところやま
懐山のおくない (天竜区懐山：国指定重要無形民俗文化財)



天竜区懐山の泰蔵院において、毎年1月3日に行われる豊作祈念、子孫繁栄を祈る春祈祷の祭りである。いつ始まったか定かでないが、猿楽能の曲が伝えられていることから中世には原型となる芸能が行われていたと考えられている。「おくない」の名称は、寺院の修正会・修二会といった法会に由来する正月や春先の祭りである「おこない」がなまったものと伝えられている。

かわいはな まい
川合花の舞（天竜区佐久間町川合：県指定無形民俗文化財）



天竜区佐久間町川合の八坂神社に伝承されている湯立神楽で、毎年10月下旬に行われている。五穀豊穡、無病息災を祈る祭り。「花の舞」は奥三河地方に数多くある霜月神楽の「花祭」が静岡県側にも伝わり、伝承されてきたもので、いずれも鬼が登場する。「花の舞」と呼称されているのは、複数の舞の演目のうち、子供たちが花笠を被って踊る「花の舞」という演目があることから、この舞が強調され芸能全体を表す名称となったと言われている。

たきさわ ほうかおどり
滝沢の放歌踊（北区滝沢町：県指定無形民俗文化財）



北区滝沢町で毎年8月13～15日にわたって行われる盆行事、前半は遠州大念仏、後半は放歌踊というように二部構成になっているのが特徴。夕刻に林慶寺境内で全村の先祖に回向（死者の成仏を願い、供養や法要を行うこと）を行った後、初盆の家々へと向かい、前庭で大念仏と放歌踊が披露される。滝沢の放歌踊は、愛知県新城市大海に古くから伝わる「放下踊」が、山伝いに引佐町渋川や東久留女木を経て伝わり、南の地域で行われていた遠州大念仏と融合したと考えられている。

えんしゅうだいねんぶつ
遠州大念仏（中区鹿谷町：市指定無形民俗文化財）



初盆を迎えた家の死者の霊を慰めるために踊られる集団念仏踊りである。踊るように太鼓が打ち鳴らされるのが特徴で、浴衣姿に笠をかぶり、念仏や歌枕などを唱えて演じられるのが基本だが、その衣装・歌・踊りなどはそれぞれの組によって異なる。三方ヶ原の戦いで戦死した武田・徳川両軍の霊を慰めるために始まったと伝えられ、毎年7月15日に中区の犀ヶ崖資料館の前庭でも遠州大念仏が行われる。浜松市中区・東区・北区・浜北区・天竜区のほか磐田市・袋井市の各組が大念仏保存会を構成している

よこおかぶき
横尾歌舞伎（北区引佐町横尾、白岩：県指定無形民俗文化財）



北区引佐町の農村歌舞伎で、寛政年間（1789-1801年）以前から行われていたことがわかっている。大きな特徴は、役者、義太夫、三味線弾きから、振り付け・大道具・小道具の製作・衣裳や髪の手入れ・舞台の照明・音響などの裏方を含め、すべて地区の人々の手で賄われていることで、質の高い芸を維持するため年間を通じて稽古を行い、絶えず演技や演奏技術の向上を図っている。毎年10月に定期公演を行っている。もとは白岩の六所神社と横尾の八柱神社にそれぞれ奉納した。